

NEW COMPUTER SEWING MACHINE

mon ami **NU**α

使用の手びき

型式：**SC-300**



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用前に必ず
お読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長く
ご活用ください。

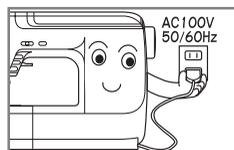
このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、模様ぬいや文字ぬい、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

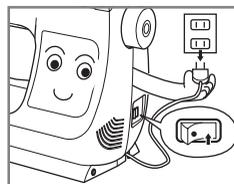
警告 感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100V以外では使用しないでください。



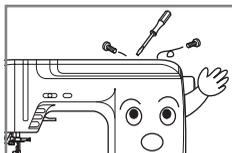
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。

- ・ ミシンのそばを離れるとき。
- ・ ミシンを使用したあと。
- ・ ミシン使用中に停電したとき。

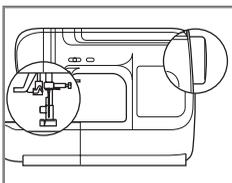


注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

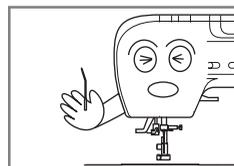
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。



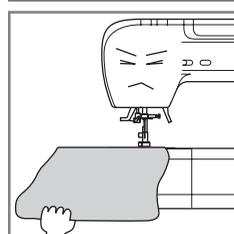
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。



3. 曲がった針はご使用にならないでください。



4. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。

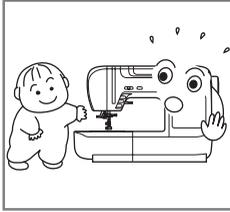




注意

感電、火災、けがなどの原因となります。

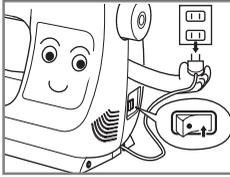
5. お子様ご使用になるときや、お子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。



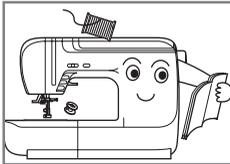
6. フットコントローラーの上に物をのせないでください。



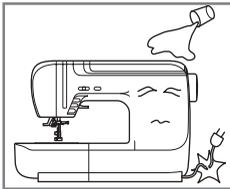
7. 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。



8. 上糸、下糸の交換をするときは、使用の手びきの手順に従って正しく行ってください。

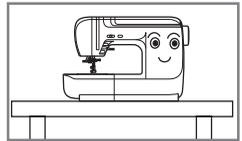


9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。

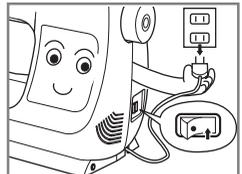


- ・正常に作動しないとき。
- ・落下などにより破損したとき。
- ・水に濡れたとき。
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・異常な臭い、音がするとき。
- ・中に異物が入ったとき

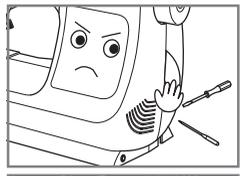
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。



11. 電源プラグを抜くときは、電源スイッチを切り、プラグを持って引き抜いてください。



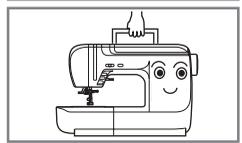
12. 換気口やスキマに異物を入れたり、ドライバーを差し込んだりしないでください。



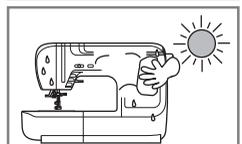
13. ミシンの通気口をふさがしないでください。



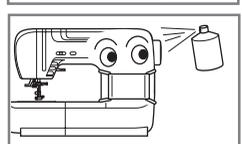
14. ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。



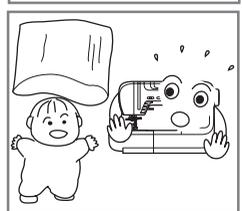
15. 直射日光に当たったり、高温多湿のところに置かないでください。



16. スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。

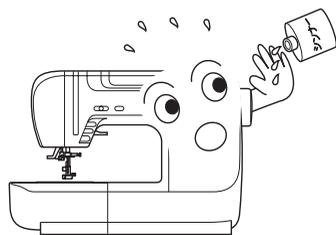


17. 袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか、廃棄してください。

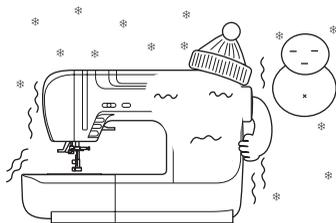


ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動ようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



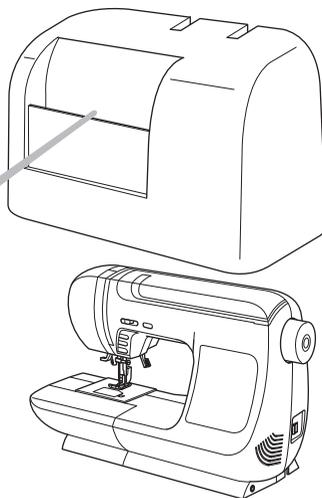
シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。

ミシンカバーの中にある緩衝材は取り外さないでください。

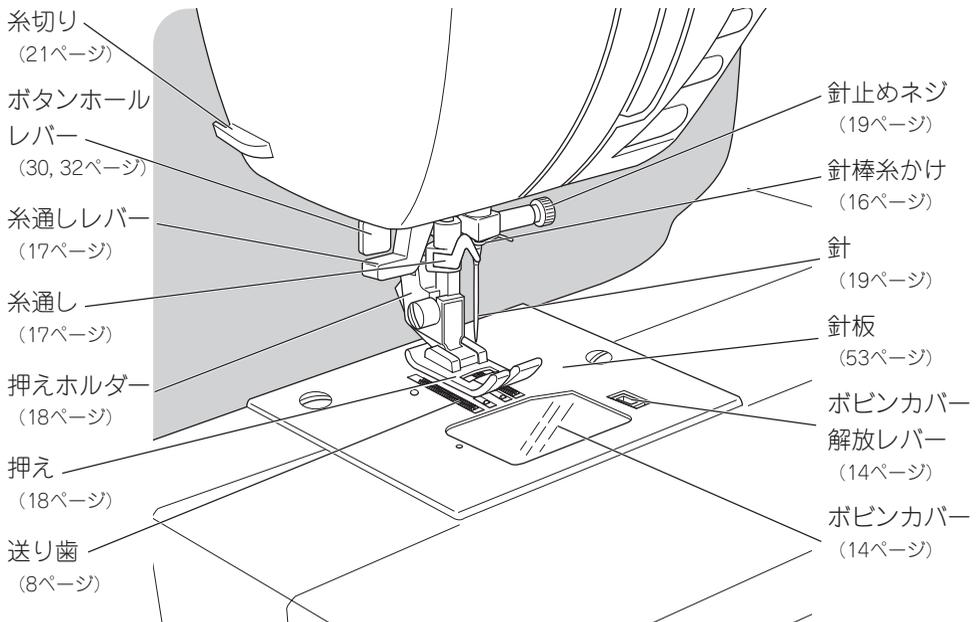
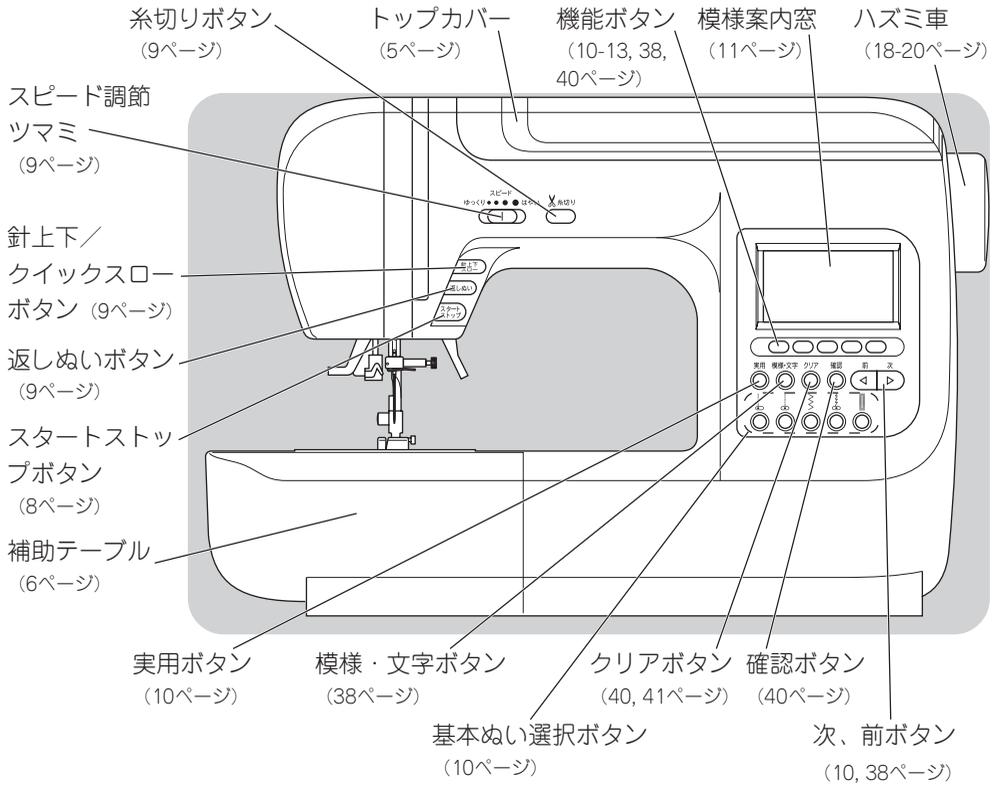
ミシンカバーには、この手びきが収納できます。



目次

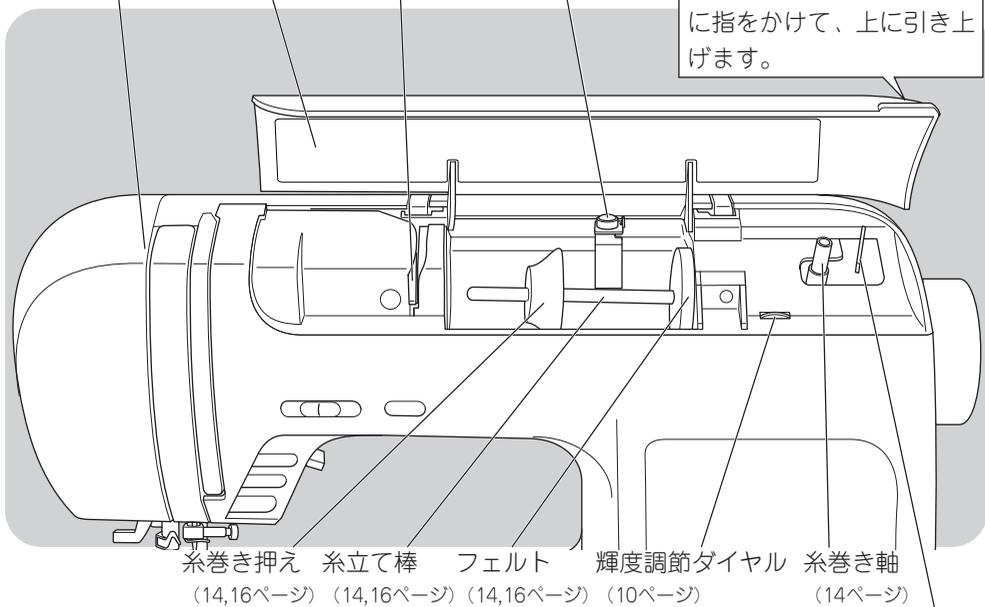
安全にご使用いただくために	表紙裏	パッチワーク	27
ミシンの取り扱い	2	アプリケ	27
ミシンカバー	2	ふちかがりぬい（たち目かがり）	28
各部のなまえ	4	まつりぬい（ブラインドステッチ）	29
付属品・補助テーブル	6	ボタンホールぬい	30
電源を入れましょう	7	かん止め・つくろいぬい	32
フットコンローラーのご案内（別売り）	7	アイレット（はと目穴）	33
各部のはたらき	8	ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）	34
ぬい模様の選び方（基本ぬい、実用ぬい）	10	つき合わせ	34
自動糸調子	13	脇あき	35
下糸の準備	14	スカラップ ステッチ	36
ポビンの取り出し方	14	ピンタック	37
下糸の巻き方	14	飾りぬい	37
ポビンのセット	15	模様・文字ぬい	38
上糸の準備	16	模様・文字の選び方	38
上糸のかけ方	16	模様・文字一覧	39
糸通しの使い方	17	模様・文字の確認	40
下糸の引き上げ方	17	模様・文字の取り消し	41
押えと押えホルダーの取りかえ方	18	模様・文字の呼び出し	41
押えの取りかえ方	18	模様・文字のぬい方	42
押えホルダーの外し方	18	ぬい目の形の調整	46
糸と針の選び方	19	ミシンの仕様	47
針の取りかえ方	19	キルティング押えのご案内（別売り品）	48
ぬってみましょう	20	キルティング押えの取り付け方	48
ぬい始め～ぬい終わり	20	ぬい方（曲線ぬい）	48
返しぬい	21	上送り押えのご案内（別売り品）	49
自動止めぬい	21	上送り押えの取り付け方	49
ぬい方向の換え方	22	ぬい方	49
厚地のぬい始め	22	お知らせメッセージ	50
段ぬい	22	こんなときには	51
直線ぬい（地ぬい）	23	ミシンのお手入れ	52
自動返しぬい付直線ぬい	23	ミシン表面、ミシンカバーの掃除	52
伸縮ぬい	24	送り歯の掃除	52
ジグザグぬい	24	外がまとポビンケースの掃除	53
伸縮強化ぬい	25	修理サービスマニュアル	54
手ぬい風キルトステッチ	25	お問い合わせまたはご相談先	
点線ジグザグぬい（つくろいぬい）	26	（純正部品の購入方法）	55
フリーアームぬい	26	ぬい模様一覧	56

各部のなまえ

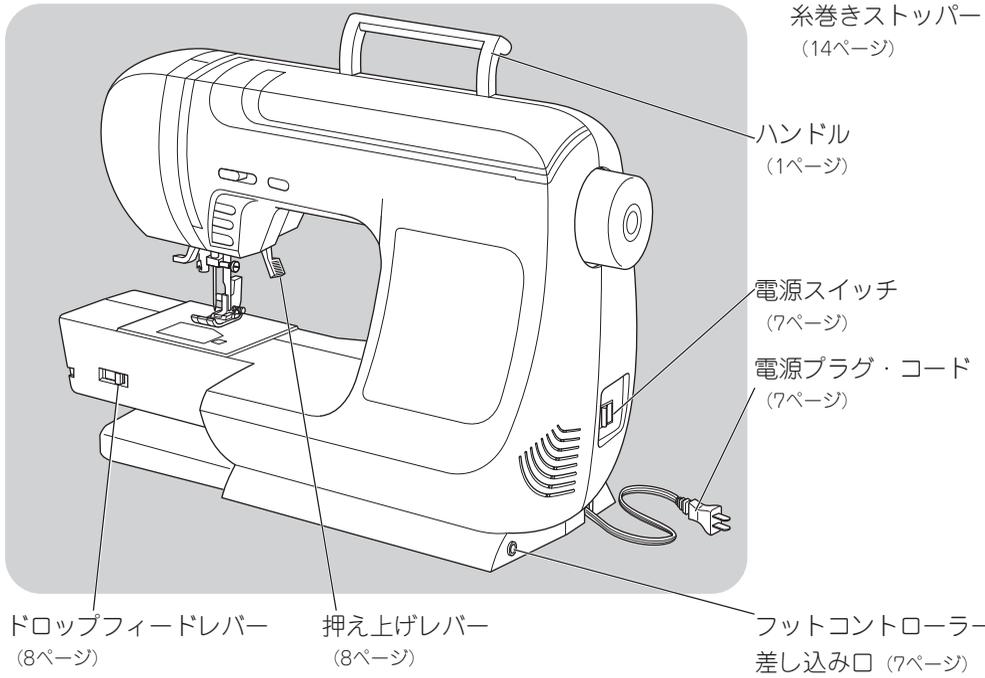


天びん (内部) (16ページ)
 ぬい模様一覧表 (10, 38, 56ページ)
 糸かけ (14, 16ページ)
 糸巻き案内 (14ページ)

● **トップカバーのあげ方**
 トップカバー右側の指かけに指をかけて、上に引き上げます。



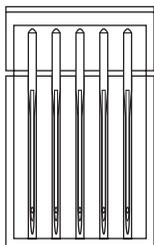
糸巻きストッパー (14ページ)



付属品・補助テーブル

●付属品

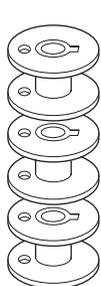
付属品は補助テーブルの中に入っています。



針ケース (5本入り)

11番、14番、16番

ニット針 (黄色) 11番、14番



ボビン



ブラシ



ドライバー



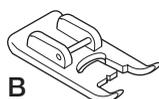
針板用
ドライバー



シームリッパー

●押え

押えには、わかりやすいようにそれぞれ記号がついています。



A

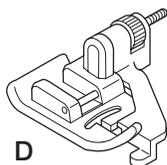
ジグザグ押え

(ミシンについています)



B

サテン押え



C

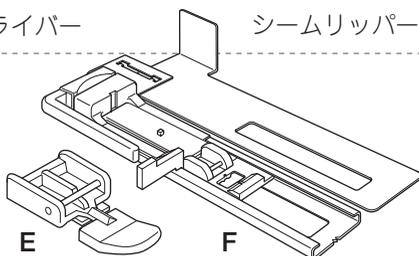
ふちかがり押え



D

まつりぬい

(ブラインド) 押え



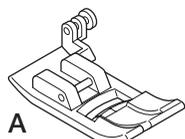
E

ファスナー押え

F

ボタンホール押え

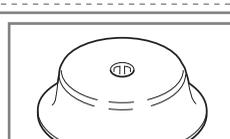
(アンダープレート付)



A

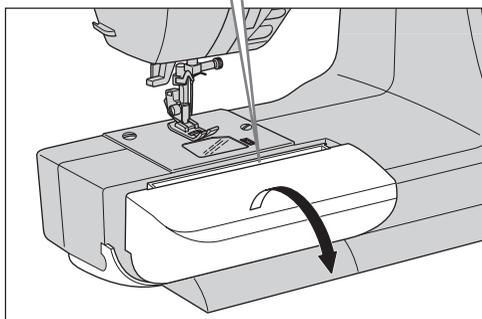
ジグザグ押え

(ミシンについています)



糸巻き押え

(ミシンについています)



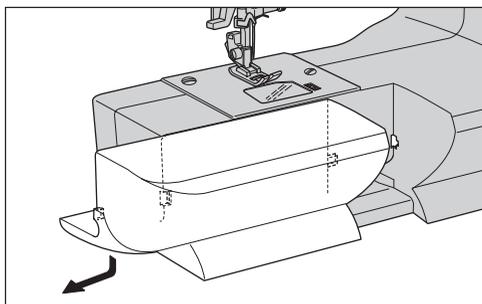
●補助テーブルの開け方

テーブル手前の角に指をかけ、手前に倒します。

●補助テーブルの取り外し方

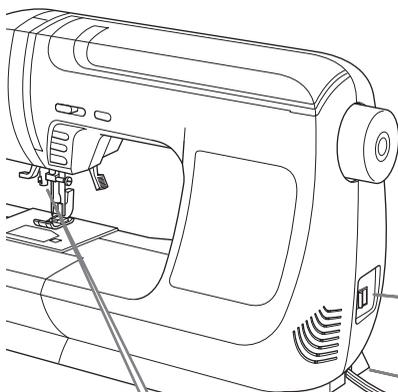
テーブルの左下に指をかけて、左に引きます。

取り付けは、テーブルのツメがミシンに入るように合わせ、右にすべり込ませます。



電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



① 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

⚠️ **警告：感電、火災を防ぐために；**
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

② 電源スイッチを入れます。

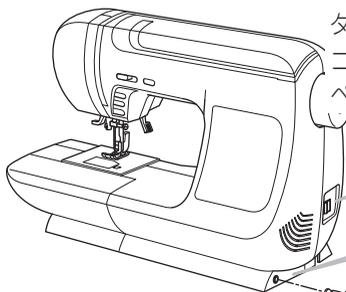


③ 電源を入れると、ランプが点灯します。
模様は、自動的に地ぬい(中)が選ばれます。

● コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

フットコントローラーのご案内 (別売り)

別売りのフットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン(次ページ参照)はきかなくなります。



① 電源スイッチを切ります。

② コントローラーのプラグをミシンの差し込み口に差し込みます。

③ コントローラーを足元に置き、電源を入れなおします。

ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。

ペダルをはなすとストップします。

スピード調節つまみ(9ページ参照)は、最高スピードを調節します。速くしたいときは、右にセットしてください。押えを下げないとスタートしません。(次ページ参照)

- お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。
- コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。



警告；感電、火災を防ぐために；

コントローラーは、落としたり、座ブツの下において使用しないで下さい。



注意：ケガ防止のために；

コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行って下さい。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン

1度押すとスタートし、もう1度押すとストップします。
ぬい始めはゆっくり回ります。

●お知らせランプ

緑... ぬいや下糸巻きの準備OK

赤... 押えやボタンホールレバーが下りていないのでスタートしません。

●押え上げレバー

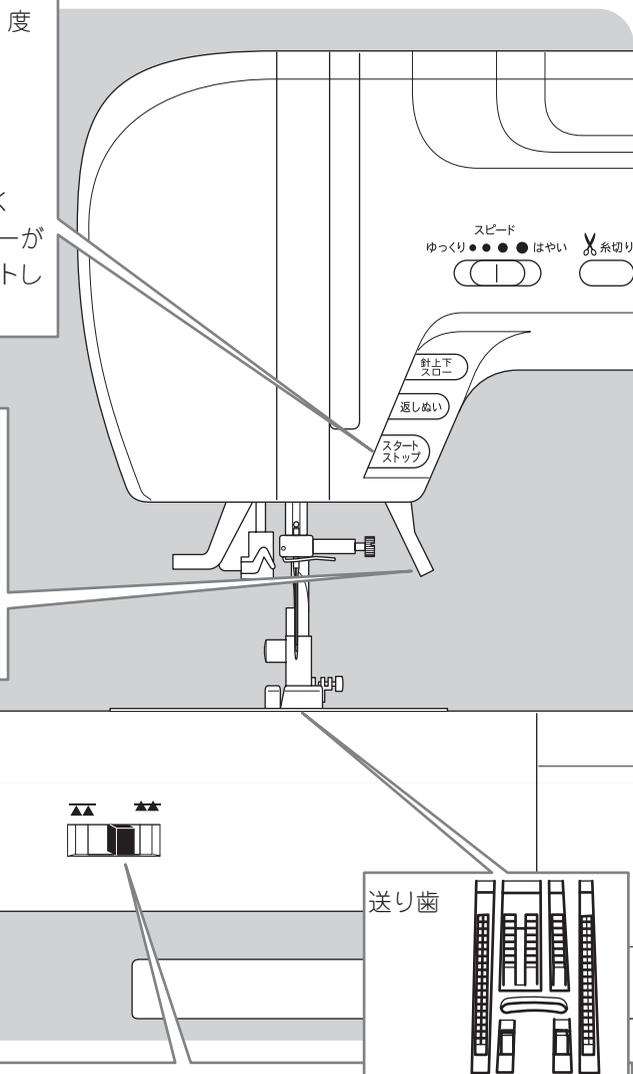
このレバーで押えの上げ下げをします。押えが上がっているときは、ミシンはスタートしません。（下糸巻きを除く）

●ドロップフィードレバー

このレバーで送り歯の上げ下げをします。

レバーを右にすると、送り歯が針板の上に出てきて、布を送ります。通常は、この位置にしておきます。

レバーを左にすると、送り歯が針板より下がり、布を送りません。キルティング押え（別売り品：48ページ参照）を使って曲線ぬいをするときなど、布を手で操作するときには、この位置にします。



●スピード調節つまみ

右にスライドさせると速く、左にスライドさせるとゆっくりになります。

●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタンを押すと、上糸と下糸を同時に切ります。

*番手が30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。

これらの糸を切る場合には、ミシン左側の糸切りをお使いください。(21ページ参照)



●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。離すと止まります。

コントローラ接続の場合は、ペダルも踏みます。ボタンを離すと正送りになります。

●針上下・クイックスローボタン

止まっているとき：針上下ボタン

ミシンが止まっているときにこのボタンを押すと、針の位置が上下に切りかわります。上位置から続けて2回押すと1針ぬいになります。

ぬっているとき：クイックスローボタン

ぬいの途中で1度押すと、ゆっくりぬいになります。もう1度押すと、もとのぬいスピードに戻ります。

ぬい模様の選び方（基本ぬい、実用ぬい）

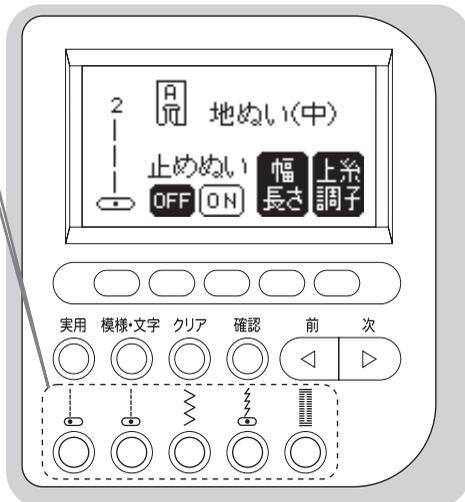
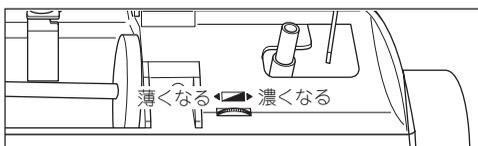
このミシンでぬえるぬい模様が、トップカバーの内側と、この手びきの56ページ「ぬい模様一覧」に表示してあります。ぬい模様は、いろいろな用途に使われる基本ぬい、実用ぬいと、組み合わせて装飾的なぬいに用いる模様・文字ぬいとに分けられています。ここでは、基本ぬい、実用ぬいの選び方について説明します。模様・文字ぬいの選び方は、38ページをご覧ください。

●基本ぬいの選び方

実用ぬいの中でもよく使われるぬい（基本ぬい）は、直接選ぶことができます。ぬいたい模様のボタンを押してください。選んだ模様が模様案内窓に表示されます。

●模様案内窓が見つらいときは

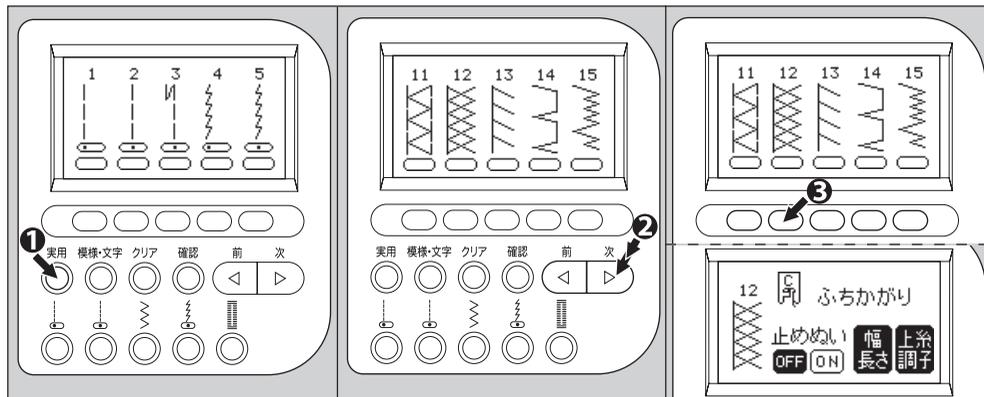
トップカバーをあけて、中にある輝度調節ダイヤルを左右に回して、濃さを調節します。



●基本ぬい以外の実用ぬいの選び方

基本ぬい以外の実用ぬいは、次のようにして選びます。

- ① 実用ボタンを押します。実用ぬいの5つの模様が表示されます。
- ② 次ボタンを押すごとに次の5つの模様が、前ボタンを押すごとに前の5つの模様が順番に表示されます。ぬいたい模様が表示されるまで、ボタンを押します。
- ③ ぬいたい模様の下の機能ボタンを押します。選んだ模様が表示されます。



実用ボタンを押しても次の5つの模様が表示されます。

●模様案内窓

実用ぬいを選ぶと、模様案内窓には、次の内容が表示されます。（模様案内画面）

a. 選んだぬい模様と番号

b. ぬい模様に適した押えの記号

押えには、それぞれ記号がついています。

c. 選んだぬい模様の主な用途

ふちかがりぬいやファスナー付けなど、表示以外の押えや用途もあります。（28、34ページ参照）

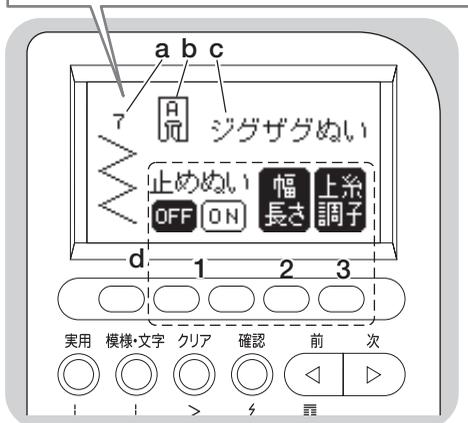
d. 機能ボタンの機能表示

1. 自動止めぬいのON、OFFボタン

（21ページ「自動止めぬい」参照）

2. シグザグのふり幅、ぬい目長さの調節画面への切り替えボタン（次ページ参照）

3. 上糸調子調節画面への切り替えボタン（13ページ参照）



●実用ぬい一覧

このミシンでぬえる実用ぬいの模様と、模様を選んだときに自動設定されるシグザグのふり幅とぬい目長さの目安です。（単位:mm）

シグザグのふり幅とぬい目長さは、手で調節することができます。（次ページ参照）

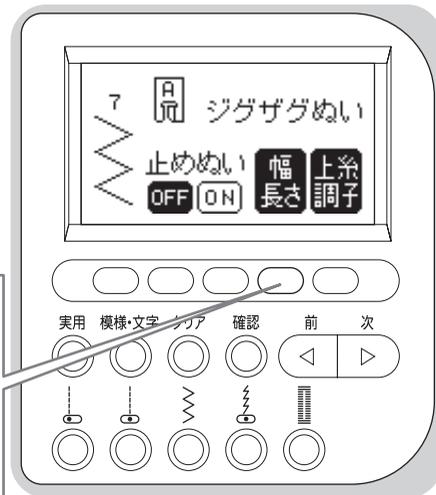
直線ぬい（模様1, 2, 3, 6, 18）は、シグザグのふり幅のかわりに、ぬう時の針の左右位置を変えることができます。

（ ）で表示された数字や、表示のないものは、設定値から変えられません。

基本ぬい	
模様	1 2 7 5 31
シグザグのふり幅	0.0 3.5 5.0 (3.5) 5.0
ぬい目長さ	2.5 2.5 2.0 2.6 0.5
模様	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
シグザグのふり幅	0.0 3.5 3.5 (0.0) (3.5) 3.5 5.0 5.0 5.0 5.5 5.5 5.5 5.0 3.0 3.0 6.0 7.0 3.5 5.0 7.0
ぬい目長さ	2.5 2.5 2.5 2.6 2.6 2.6 2.0 1.0 2.6 2.6 2.6 2.6 2.6 1.8 1.8 2.6 2.6 3.0 2.6 1.6
模様	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
シグザグのふり幅	7.0 7.0 6.0 4.0 (5.0) 5.0 5.5 5.0 5.0 7.0 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0 6.0 (2.5) (7.0)
ぬい目長さ	- 2.6 2.6 2.6 - 2.6 2.6 2.6 2.6 2.6 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 2.4 2.4 (1.0) (1.8)

●ジグザグのふり幅とぬい目長さの調節

模様を選ぶとジグザグのふり幅とぬい目長さは、その模様に最適な幅と長さに自動設定されます。手動で調節したいときは、機能ボタンの幅・長さボタンを押して、幅・長さ調節画面にします。(自動設定値のとき、ボタンが白黒反転しています。)



幅・長さ調節画面



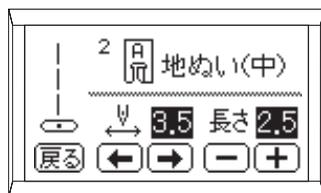
ジグザグのふり幅 せまくなる 広がる
ぬい目長さ こまかくなる あらくなる




- 自動設定値は、白黒反転して表示されます。
- 最大値、最小値になるとピピピッとってお知らせします。(模様によって最大値、最小値は、異なります。また、表示のないものや、幅・長さ調節画面にならない模様は、自動設定値から変えられません。)
- 幅・長さ調節画面のままでもぬいをスタートさせることができます。
- 「戻る」ボタンを押すと、模様案内画面に戻ります。(幅、長さが変更されると、幅・長さボタンは、白黒反転表示ではなくなります。)

- 直線ぬい(模様1, 2, 3, 6, 18)の場合は、ふり幅のかわりに、ぬう時の針の左右位置を変えることができます。

数値	0 - 3.5 - 7.0
針位置	左 中央 右



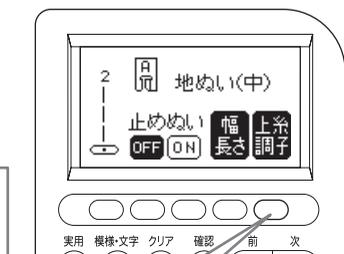
左に移動 右に移動

自動糸調子

このミシンは、上糸調子を模様に合わせて自動設定値に調節します。

上糸調子を変えてぬいたいときは、機能ボタンの上糸調子ボタンを押して、上糸調子調節画面にします。

(自動設定値のとき、ボタンが白黒反転しています。)



上糸調子調節画面



自動設定値に戻る



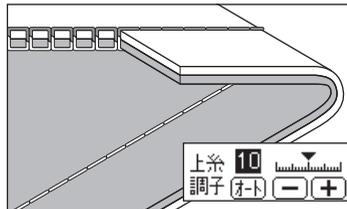
弱くなる

強くなる

- 自動設定値は、白黒反転して表示されます。
- 上糸調子調節画面のままでもぬいをスタートさせることができます。
- 「戻る」ボタンを押すと模様案内画面に戻ります。(上糸調子を変えると、上糸調子ボタンは、白黒反転表示ではなくなります。)
- 模様を選び直すと上糸調子は、自動設定値に戻ります。

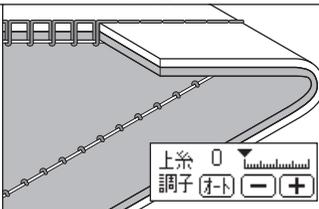
自動設定値 (オート)

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。(直線ぬい)



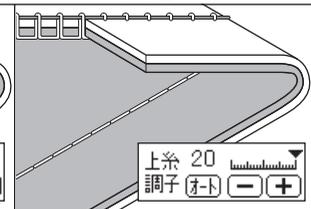
上糸が弱いぬい目 (ー)

布地の裏側に上糸が出てきます。(最小値：0)



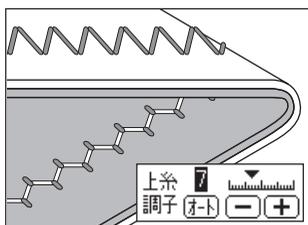
上糸が強いぬい目 (+)

布地の表側に下糸が出てきます。(最大値：20)



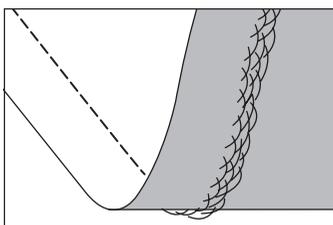
●直線ぬい以外の自動設定値

直線ぬい以外の自動設定値は、直線ぬいするときより上糸調子をやや弱めにし、上糸が布の裏側に少し出るように調節されます。

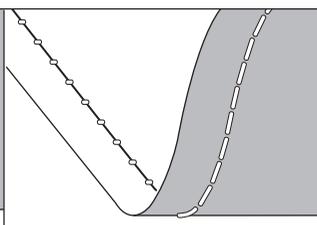


●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸の通し方が違ってきます。16ページをご覧ください。



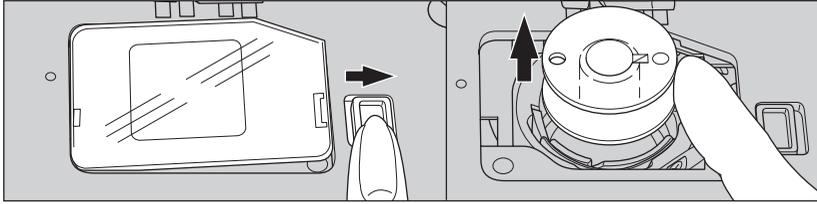
また、上糸調子が自動設定値になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ポビンのセットの仕方がちがっています。15ページをごらんの上、正しくセットしてください。



下糸の準備

■ ボビンの取り出し方

- 1 ボビンカバー解放レバーを右に押し、ボビンカバーを取り外します。
- 2 ボビンを取り出します。



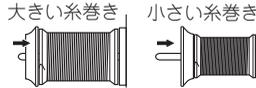
お願い：
ボビンは、
専用のもの
をお使いく
ださい。

■ 下糸の巻き方

- 1 トップカバーをあけます。

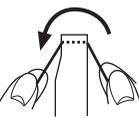
- 2 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。

糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



- 3 ミシンに表示してある①～④の順番で糸をかけます。

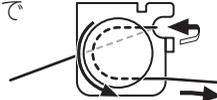
- ① 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



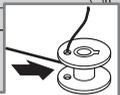
- ② 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。



- ③ 糸を右に引いて、糸巻き案内の下からかけ、案内皿の間に後ろから左回りでかけます。



- ④ ボビンの穴に糸を通します。ボビンを糸巻き軸に差し込み、右へ押しします。



- ④ 糸はしを持ちながら、ミシンをスタートさせます。スピードをゆっくりに調節します。



- ⑤ 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。

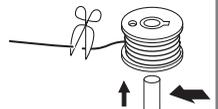


- ⑥ もう一度スタートさせます。スピードを調節します。



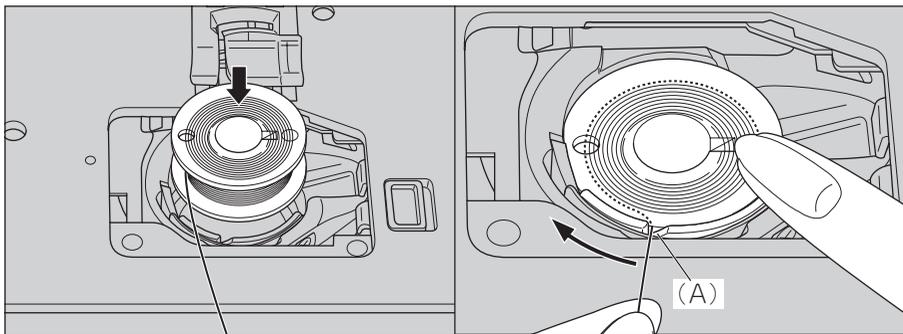
- ⑦ 糸が糸巻きストッパーにあたるまで、いっぱい巻かれると自動的にストップします。

- ⑧ 糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずします。

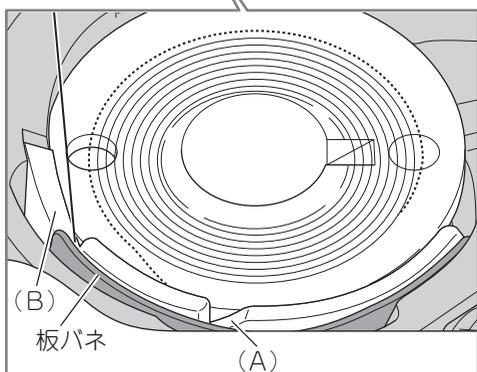
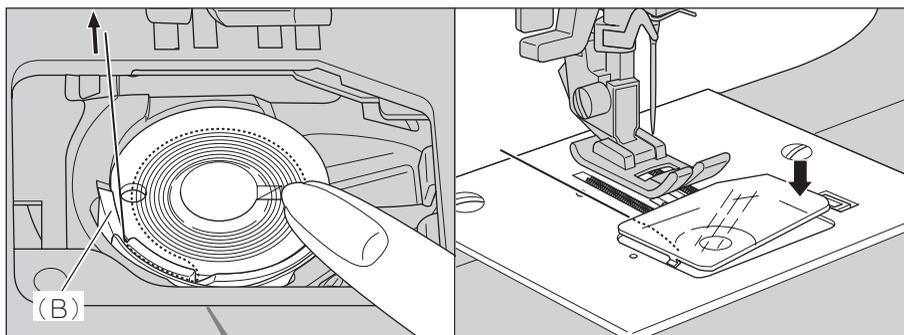


■ ボビンのセット

- 1 糸が図のような方向から出るようにして、ボビンを入れます。
- 2 ボビンが回らないように押えながら、糸を手前のみぞ (A) にかけます。



- 3 糸のみぞにかけたまま、左に引き、板バネの内側を通るようにして、みぞ (B) にかけます。
- 4 糸を10cmくらい引き出します。ボビンカバーの左側のツメを針板のみぞに合わせ、右側をかるく押して、カバーを取り付けます。

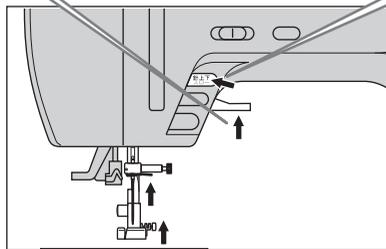


上糸の準備

■上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

1 押え上げレバーを上げます。



2 針上下ボタンで針を上上げます。

3 トップカバーをあけます。

4 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。フェルトを必ずセットしてください。

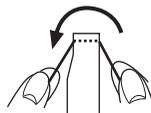
糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。

大きい糸巻き 小さい糸巻き



5 ミシンに表示してある 1～6 の順番で糸をかけます。

1. 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



2. 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。

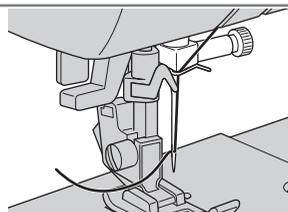


3. 糸を左に引き、矢印にそって手前におろします。

4. 右から左にかけ、上に引き上げます。

5,6. 矢印にそって右から左にかけ、下におろしてきます。(中の天びんに糸がかかります。)

6 針棒糸かけにかけ、針穴に前から通します。糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。



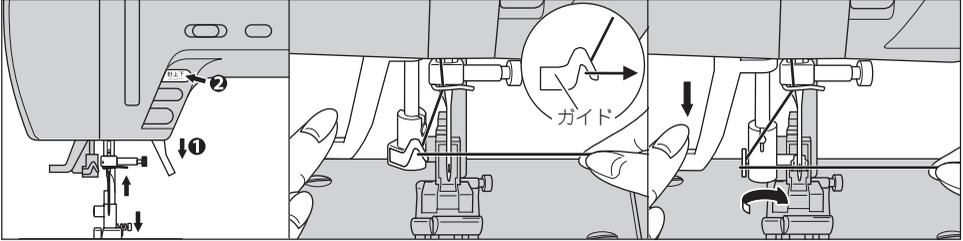
■糸通しの使い方



注意：ケガ防止のために；

ミシンが動いているときに糸通しレバーは、下げないでください。

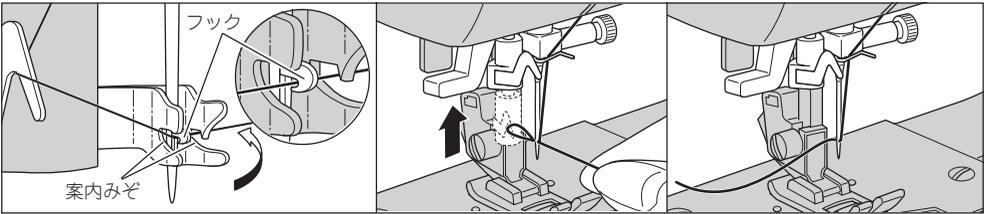
- ① 押えを下げます。
- ② 針が上位置にないときは、針上下ボタンで上上げます。
- ③ 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいてきます。
- ④ レバーをいっぱいに下げます。



糸通しは11～16番の針に使えます。

糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

- ⑤ 糸を案内みぞの奥まで入れます。
- ⑥ 糸をかるく持ったままレバーをはなします。
- ⑦ 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。

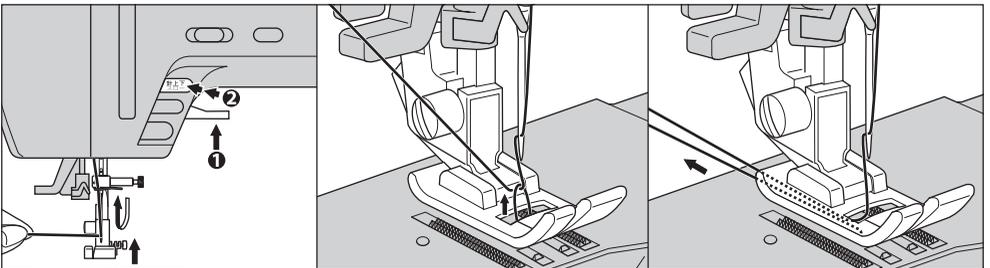


糸がフックに引っかかります。

フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

■下糸の引き上げ方

- ① 押えを上げます。
- ② 上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを2回連続して押します。
- ③ 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。
- ④ 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。



(はずみ車が手前に1回転します。)

押えと押えホルダーの取りかえ方

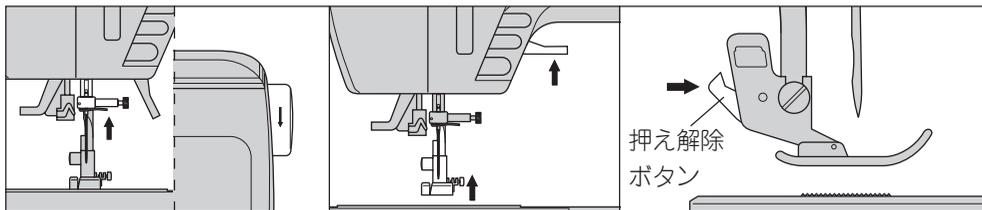
⚠注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



■ 押えの取りかえ方

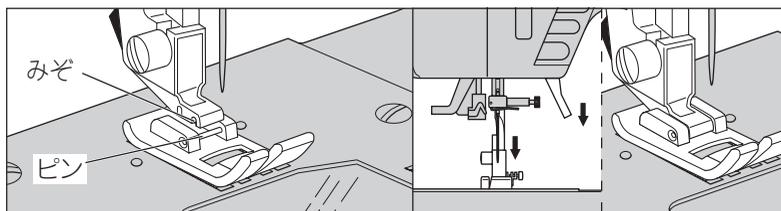
押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが23ページ以降に示してあります。

- ① ハズミ車を手前に回して、
- ② 押え上げレバーを針を一番上に上げます。
- ③ 押え解除ボタンを押します。



押えが外れます。

- ④ 交換する押えのピンを押えホルダーのみぞの真下に合わせます。
- ⑤ 押え上げレバーを下げます。



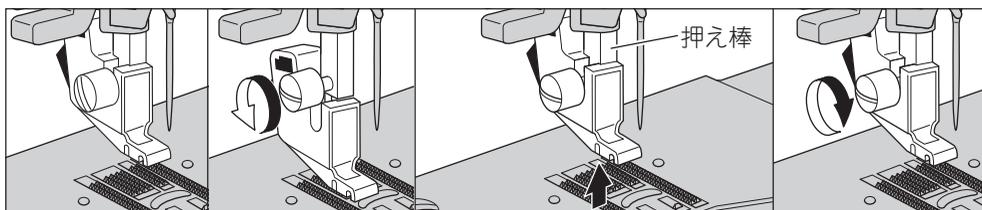
ピンがみぞにはまります。

もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■ 押えホルダーの外し方

お手入れをするときや、キルティング押え、上送り押え（別売り品：48、49ページ参照）を取り付けるときは、押えホルダーを外します。

- ① 押えを外します。
- ② 押えホルダー止ネジをゆるめます。
- ③ 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当てるまで持ち上げます。
- ④ ネジをしめます。



前項「押えの取りかえ方」参照
ホルダーが外れます。

糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類		糸の番号 (番手)	針の番号	模様 (直線) とぬい目長さ
薄地	薄地ジョーゼット、ポイル、オーガンディー、タフタ、絹布など。	綿 80~100	9~11番	ぬい目長さ 1.0~2.5
		絹 60~80		
		化繊糸 80~100		
普通地	ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、薄手のコーデュロイ、サテン、別珍、一般服地など。	綿 50~80	11~14番	ぬい目長さ 2.0~3.0
		絹 50		
		化繊糸 50~80		
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿 30~50	14~16番	ぬい目長さ 2.0~4.0
		絹 50		
		化繊糸 30~60		
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸 50~80	11~14番 ニット用針	
		絹 50		
		ニット用糸		

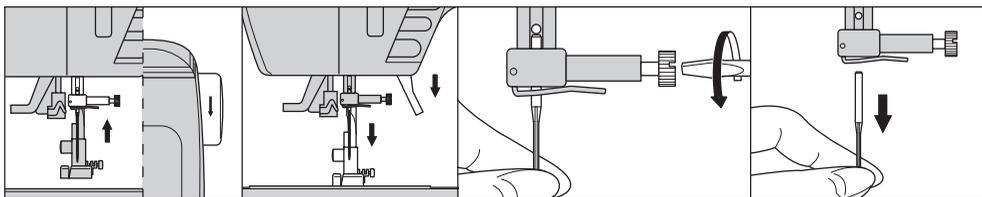
針の取りかえ方

⚠️注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

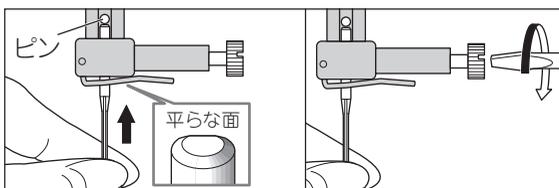


針板の上に紙や布を置いておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

- ① ハズミ車を手前に
 - ② 押え上げレバー
 - ③ 針を左手で持ちながら、
 - ④ 針をはずし
- 回して、針を一番上に戻します。
付属のドライバーで針止めネジをゆるめます。



- ⑤ 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。
- ⑥ 付属のドライバーでネジをしっかりと締めます。



注意：市販の大きなドライバーなどであまり強く締めつけしないでください。故障の原因となります。

⚠️注意：ケガ防止のために；

- 針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前には、針の平らな面を下にして針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



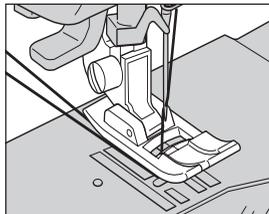
平らな面

ぬってみましょう

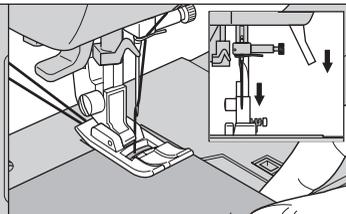
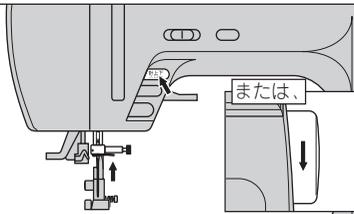
電源を入れると、地ぬい（中）²が選ばれます。

■ぬい始め～ぬい終わり

- ① 押えを確かめます。（ジグザグ押え）
- ② 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回して、針を上上げます。
- ③ 布地を入れ、押えを下げます。

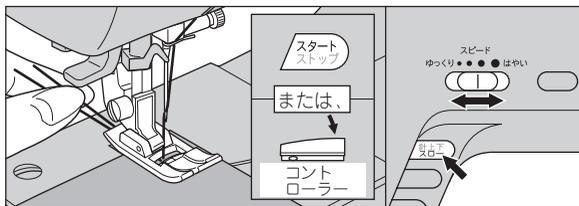


押えの取りかえ方は18ページ



お知らせランプが緑色になります。

- ④ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- ぬいながらスピードを調節できません。また、ぬいの途中で針上下・クイックスローボタンを押すとゆっくりぬいになります。

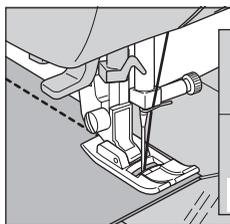


少しぬったら糸をはなします。

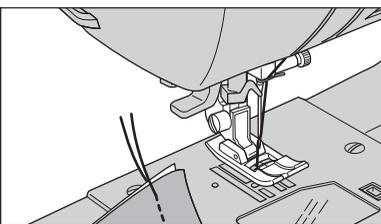
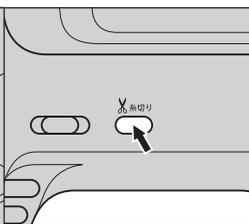
⚠️注意：ケガ防止のために；

- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

- ⑤ 終わりまで来たら、ストップします。
- ⑥ 糸切りボタンを押します。
- ⑦ 押えを上げ、布を引き出します。



針は下位置で止まります。

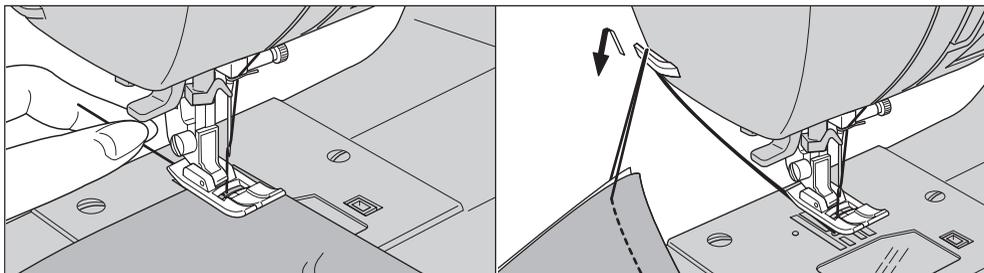


- 番手が30番以下の太い糸や、ナイロン糸等特殊な糸には、糸切りボタンを使わずにミシン左側の糸切りにかけて切ってください。（次ページ「お知らせ」参照）
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

お知らせ：

糸切りボタンで糸を切った後、次のぬい始めからは、上糸だけをもってぬい始めます。下糸を引き出す必要はありません。

糸切りボタンを使わないときは、押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の糸切りに糸を後ろから手前にかけて切ります。

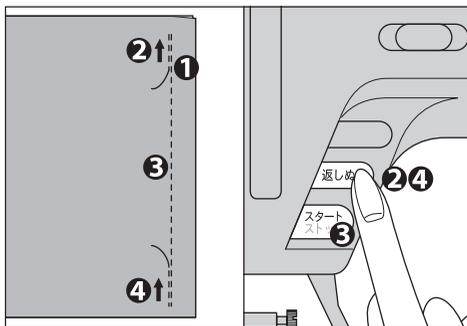


■返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを使って、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。（返しぬいボタンは、押している間、返しぬいをし、離すと止まります。）

- 1 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
- 2 返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。
- 3 ぬいをスタートさせます。
- 4 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。

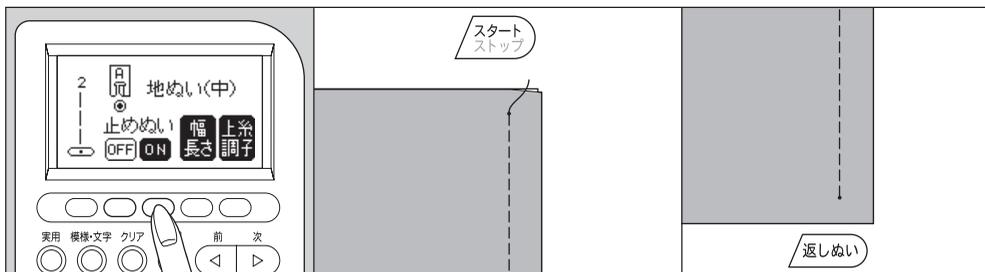
実用3は、自動返しぬいの付いた直線ぬいです。（23ページ参照）



■自動止めぬい

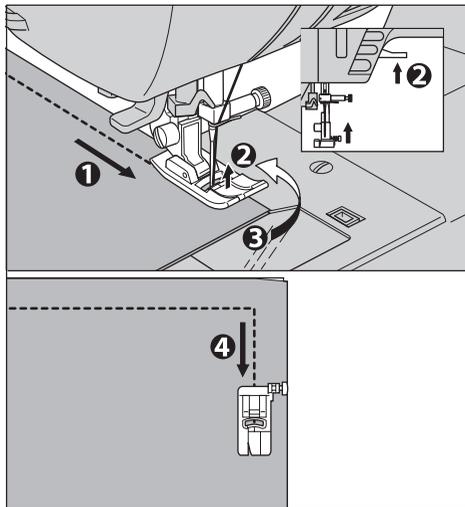
実用ぬいの模様のぬい始めとぬい終わりに、自動的に止めぬいをします。

- 1 模様を選んだ後、止めぬい ON ボタンを押します。
止めぬいマーク が表示されます。スタート・ストップボタンで中断 OFF ボタンを押すと取り消されます。きます。
- 2 ぬいをスタートさせます。
ミシンは止めぬいをしてから模様をぬい始めます。
- 3 ぬい終わりまで来たら、返しぬいボタンを1回押します。
ミシンは止めぬいをして自動的に停止します。



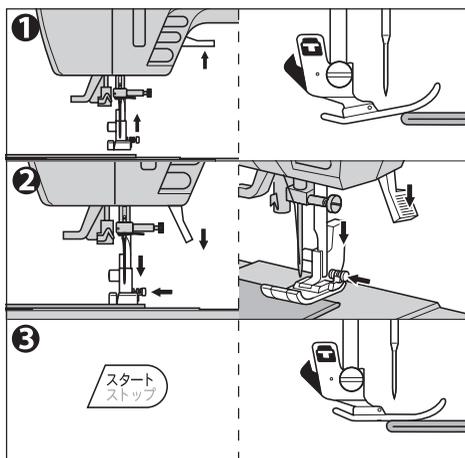
■ぬい方向の変え方

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
(針が下位置で停止します。)
- ② 押えを上げます。
- ③ 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ④ 押えを下げて、続きをぬいます。

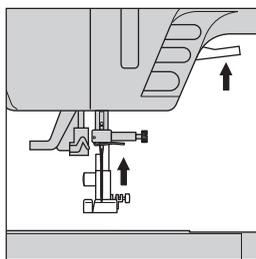


■厚地のぬい始め

- ① 厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。
- ② ジグザグ押えの右側にある黒いボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。
- ③ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

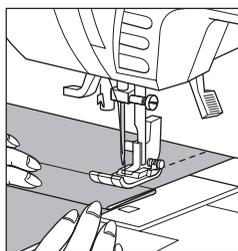


- 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。

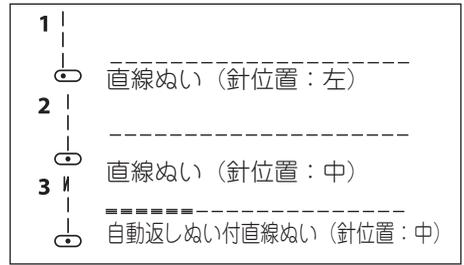
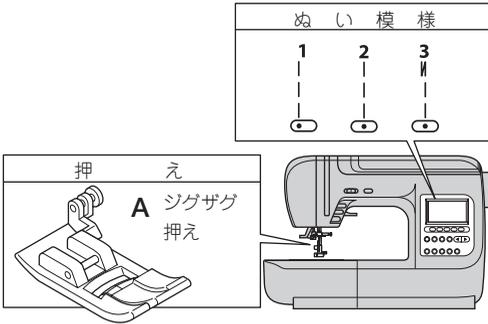


■段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



直線ぬい (地ぬい)

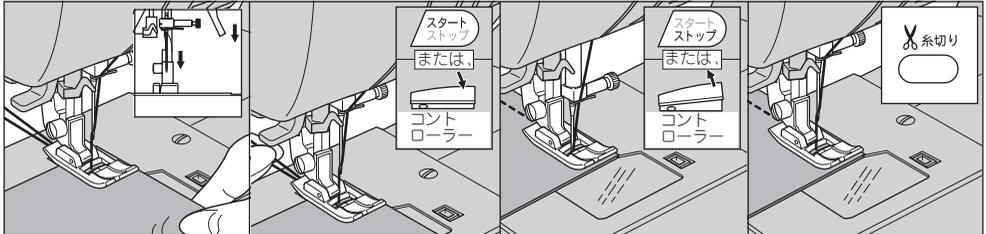


布地に合わせて、模様を選びます。

針位置：左は端ぬいに適しています。

針位置は、変更することができます。(12ページ参照)

- 1 布を入れ、押えを下げます。
- 2 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- 3 ぬい終わりまできたら、ストップさせます。
- 4 糸切りボタンを押します。



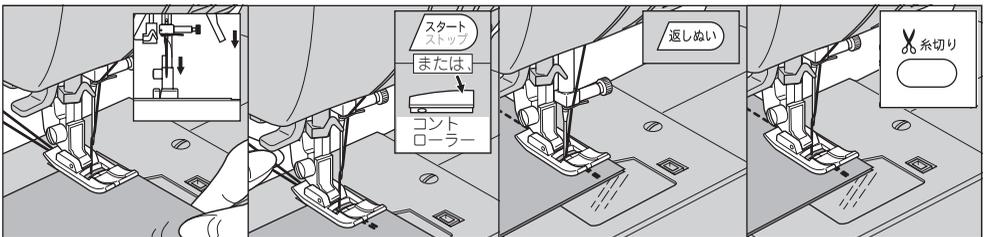
ぬっている間、手は布にかかるくそえるようにします。

番手が30番以下の太い糸や特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。

(21ページ参照)

自動返しぬい付直線ぬい (1)

- 1 布を入れ、押えを下げます。
- 2 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
- 3 ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを1回押します。
- 4 糸切りボタンを押します。



ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。ぬいを中断するには、スタートストップボタンを押します。

(コントローラーの場合は、ペダルをはなします)

ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

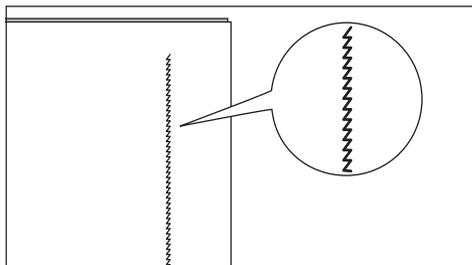
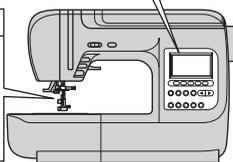
番手が30番以下の太い糸や特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。

(21ページ参照)

伸縮ぬい



伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

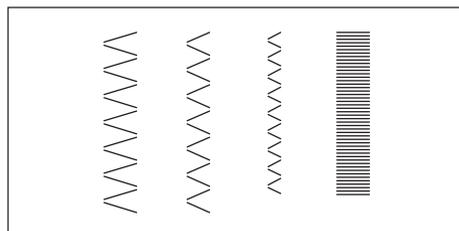
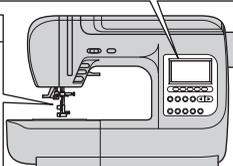
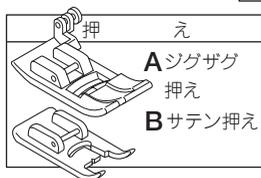


- 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

ジグザグぬい

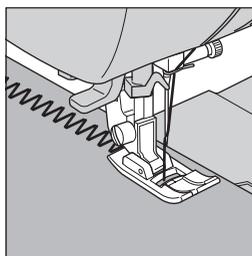


ぬい目長さ、ジグザグのふり幅を調節していろいろな形のジグザグぬいができます。

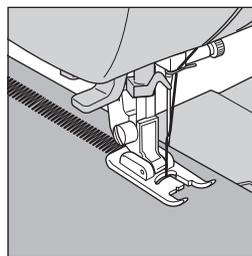


布地のはぎあわせやふちかがりなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

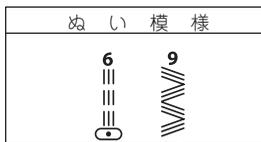
ふちかがりぬいは、28ページを参照ください。



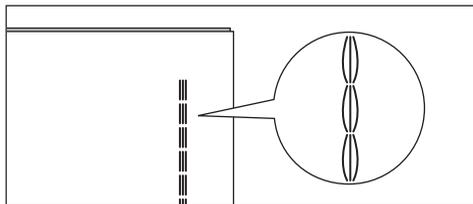
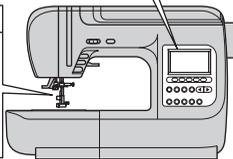
ぬい目長さをこまかくして、密着ぬいをぬう場合には、サテン押えをお使いください。



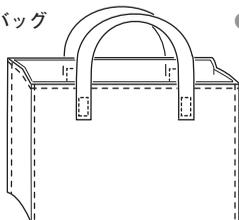
伸縮強化ぬい



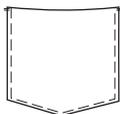
直線とジグザグの3重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



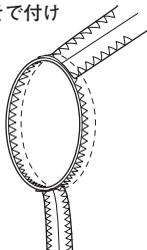
● バッグ



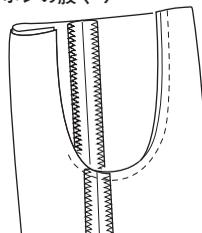
● ポケット



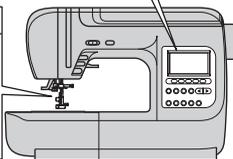
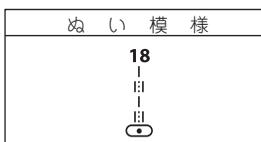
● そで付け



● スボンの股ぐり

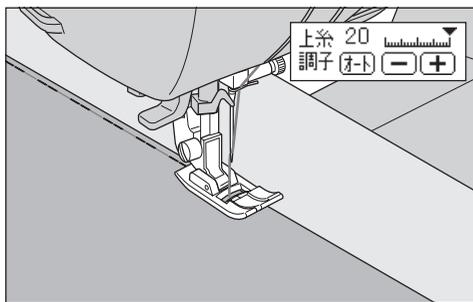


手ぬい風キルトステッチ



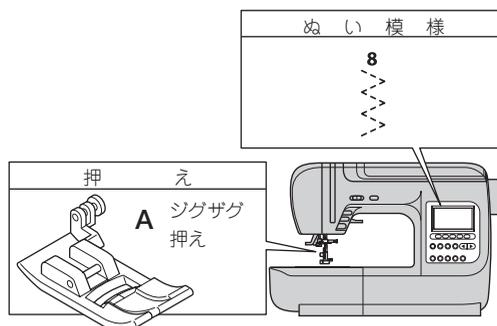
上糸に透明なナイロン糸や、目立たない糸を使い、下糸にキルト布地に合う配色の糸を使います。

上糸調子を強くして（13ページ参照）、下糸が布の表側に出るようにすると、手でぬったような風合いのキルトぬいができます。

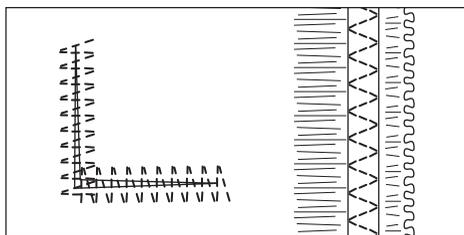


● 糸調子を強くするぬいなので、普通地、厚地の布にだけお使いください。

点線ジグザグぬい (つくろいぬい)

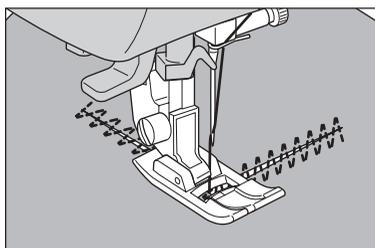


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。



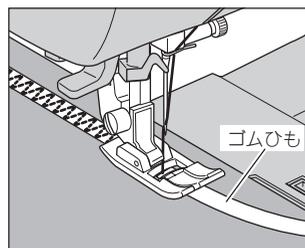
●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。
ボタンホール押えを使ったつくろいぬいもあります。
(32ページ参照)



●ゴムひも付け

ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。

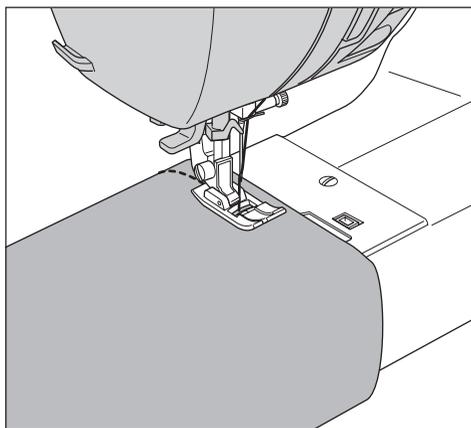


フリーアームぬい

補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。

袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

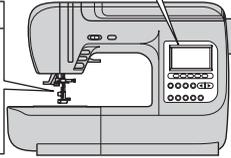
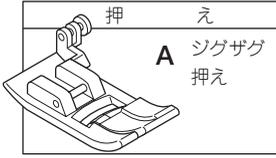
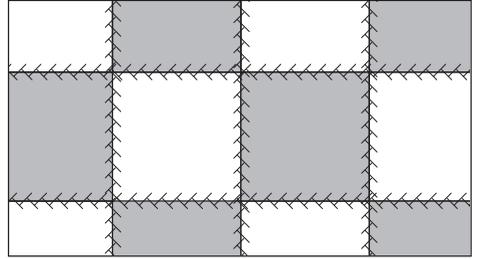
- 補助テーブルの取りはずし方は6ページを参照ください。
- まつりぬいは29ページを参照ください。



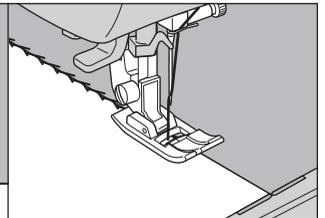
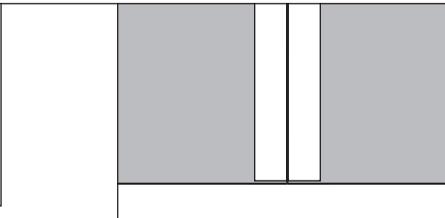
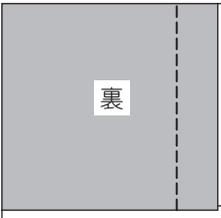
パッチワーク



いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



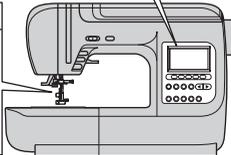
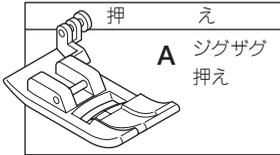
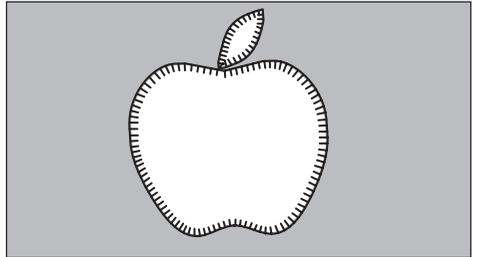
- 1 2枚の布地を中表に合わせ地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわります。
- 3 両方の布地に模様があたがるようにしてぬいます。



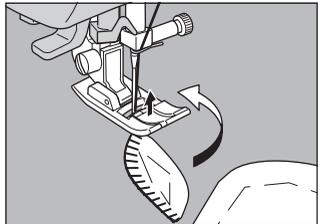
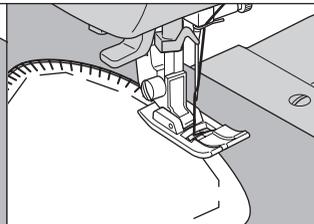
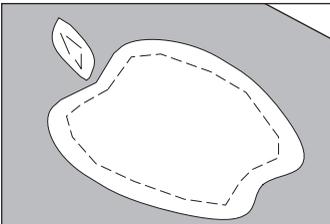
アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。



- 1 アップリケ布を止めます。
 - 2 アップリケの布はしをたちかがりと同じ要領でぬい付けます。
- 急な角度をぬう場合
布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。

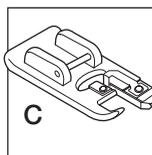
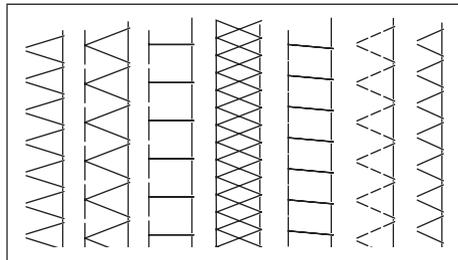
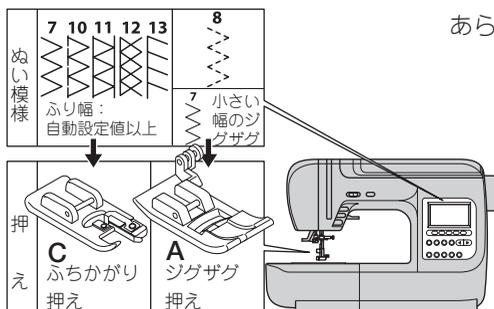


のりづけまたはしつけをします。

カーブの強いものは、ジグザグのふり幅を小さくします。

ふちかがりぬい (たち目かがり)

あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

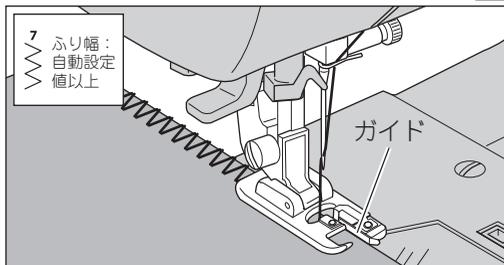


ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあて、針が布はしいっぱい落ちるようにしてぬいます。

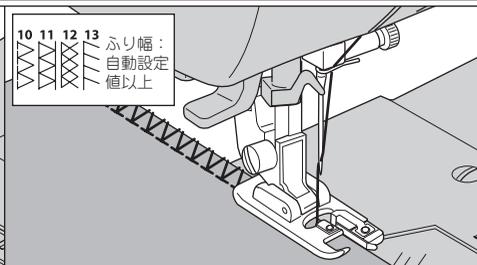


注意：ケガ防止のために；

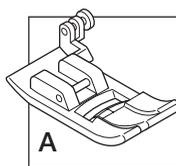
ふちかがり押えは、必ず実用7、10～13に合わせ、ふり幅を自動設定値以上にお使いください。ほかのぬい模様では針が押えにあたり危険です。



たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

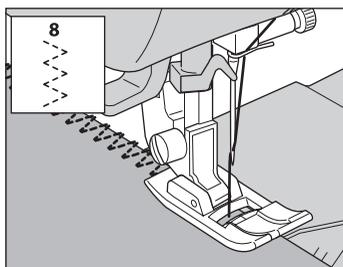


かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬい方です。

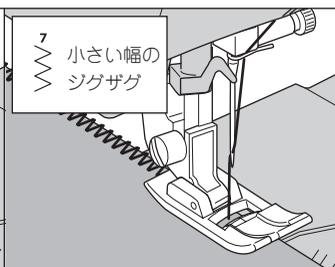


ジグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

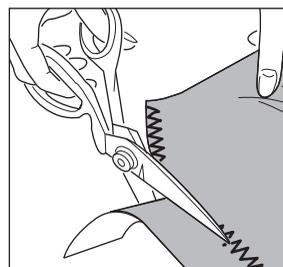
あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。



厚地、伸縮性のある布に利用します。

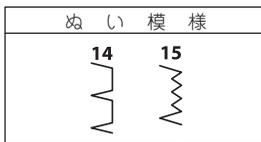


小さい幅のジグザグでかがるときに使います。

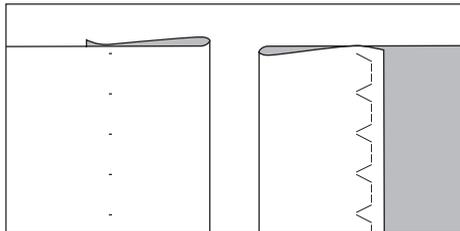
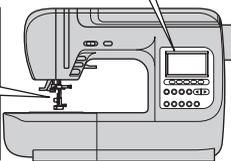


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

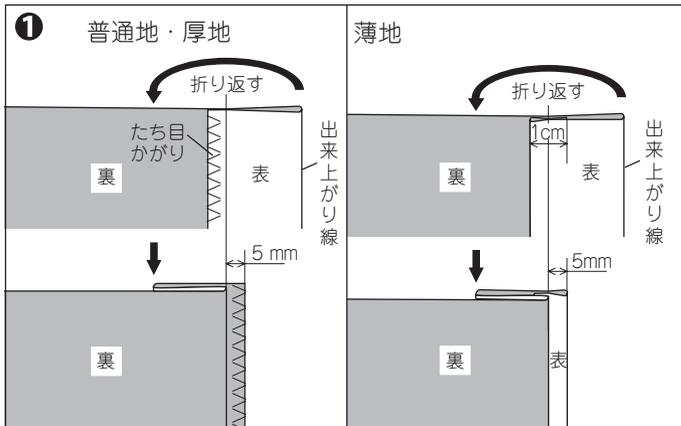
まつりぬい (ブラインドステッチ)



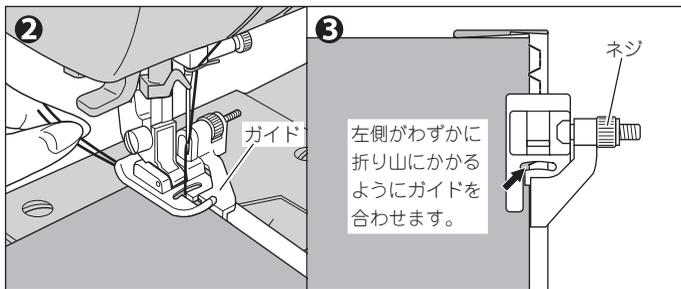
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。



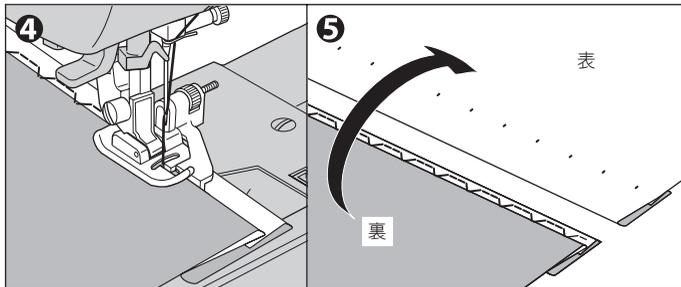
- 1 布を出来上がり線で折り、図のように布端が5mm出るように折り返します。
薄地の場合、布端をあらかじめ1cm中に折り込んでから、5mm出るように折り返します。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



- 2 折り山を押えのガイドにあてます。
- 3 針が最も左側きたときに折り山にわずかにかかるようにガイドの位置を調節します。
ネジを手前に回すとガイドは右に、向こう側に回すとガイドは左に移動します。



- 4 折り山をガイドにあてながらぬいます。
- 5 ぬい終わりましたら、布を返します。

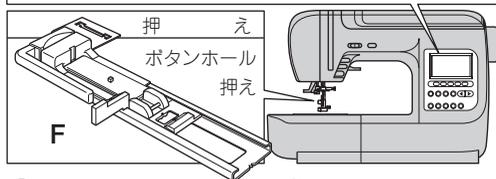


- 針上位置で模様を選ぶと、針は最も左側にくるようになっています。

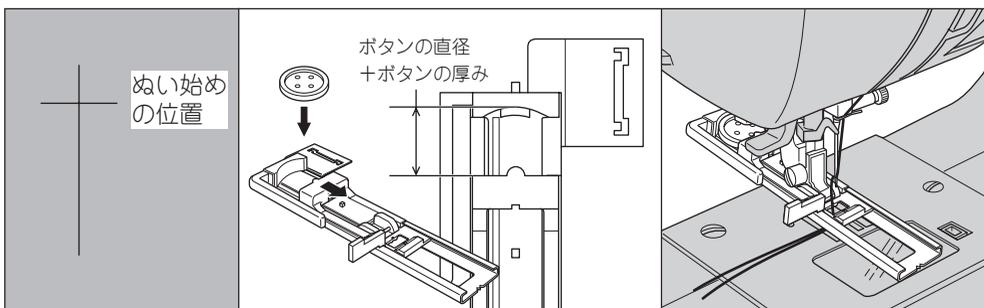
ボタンホールぬい

8種類のボタンホールをそれぞれワンタッチでぬうことができます。

ぬ		い		模		様	
31 	薄地、 普通地用	32 	厚地用	33 	力のかか る厚地用	34 	薄地、 普通地用
35 	力のかか る薄地、 普通地用	36 	薄地用	37 	飾りぬい 伸縮地	38 	伸縮地用



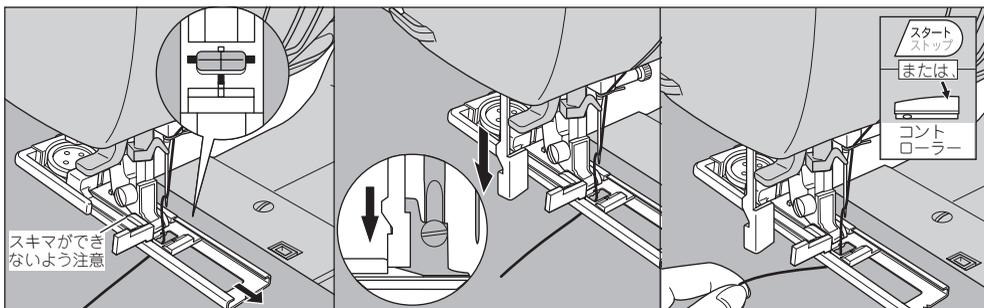
- 1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。
- 2 ボタンを押えの台にセットします。
- 3 上糸を押えの穴に通し、上糸と下糸をそろえて左側に出しておきます。



- 台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径+ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

糸切りボタンで糸を切ったときは、下糸を出す必要はありません。

- 4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。
- 5 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。
- 6 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。

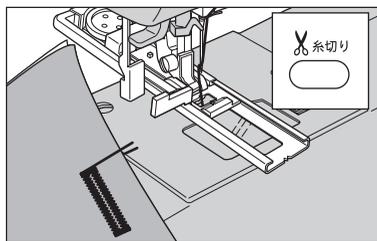
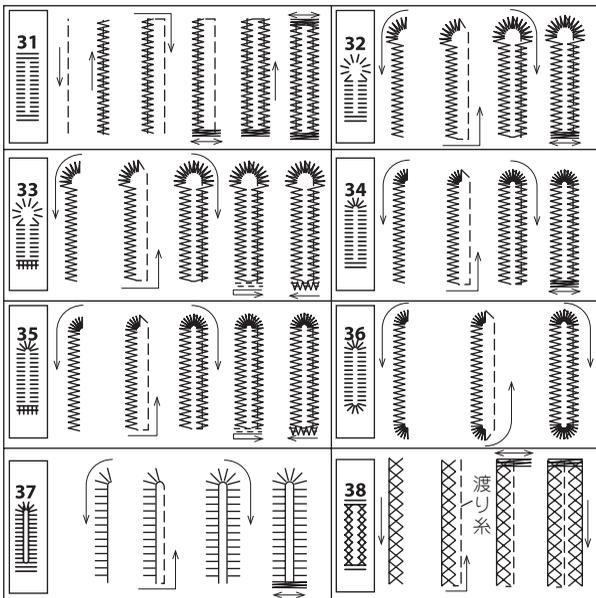


押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

ご注意:ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、スタートしません。

7 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。
ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

8 糸切りボタンを押します。押えを
上げて、布ははずします。



ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番手前に引てください。

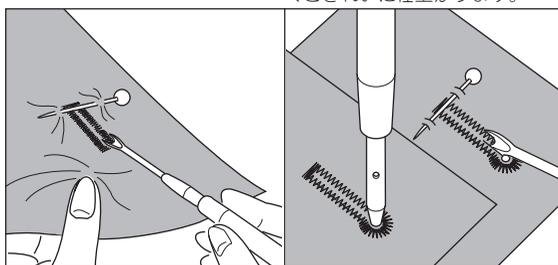
9 シームリッパーでボ
タン穴を切り開きま
す。

実用32, 33のキーホールには、は
と目穴パンチ (市販品) で穴をあ
けてからシームリッパーで切り開
くときれいに仕上がります。

●アンダープレートの使い方

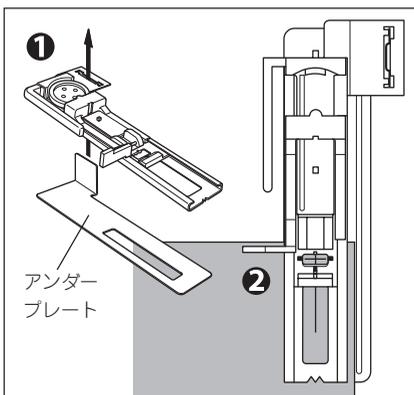
薄地や送りにくい布、布はしなどのぬ
いにくい部分のボタンホールには、ア
ンダープレートを使います。

1. アンダープレートを押えの下から
差し込んだまま、押えホルダーに
取り付けます。
2. 布を押えの枠とアンダープレート
の間に入れてぬいます。



ぬい糸を切らないように注意してく
ださい。
かん止めのところにまち針を刺して
おくと、切り過ぎがありません。
実用38は、中央の糸 (渡り糸) を
切って取り除きます。

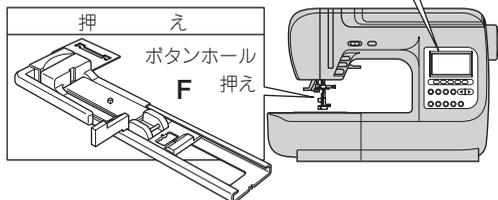
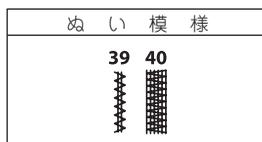
穴をあけるときは、下に厚
紙などをしてください。



⚠️注意：ケガ防止のために；

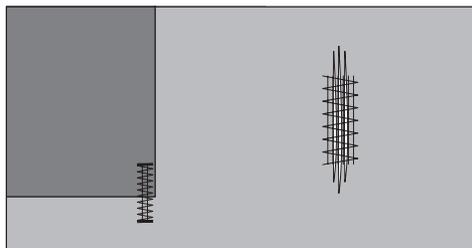
シームリッパーで穴を開く時、リッパーの先端に
手や指を置かないでください。すべった時ケガを
する恐れがあります。

かん止め・つくろいぬい

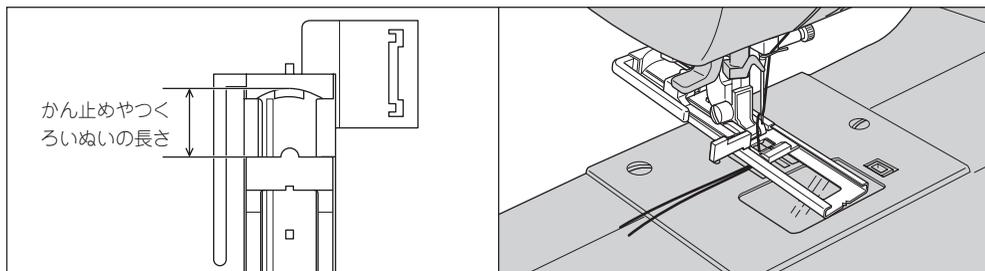


かん止め：ポケット口やあき止まりなどの力がかかってほつれやすいところに用います。

つくろいぬい：やぶれたり、薄くなった布地の補強に用います。

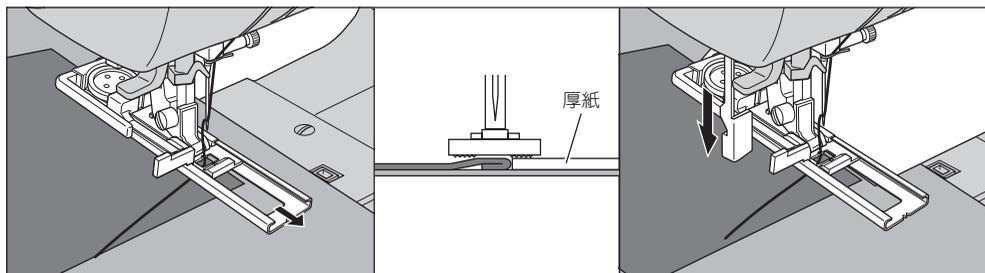


- ① ぬいたいかん止めやつくろいぬいの長さの分だけ、押えの台をスライドさせます。
- ② 上糸を押えの穴に通し、上糸と下糸をそろえて左側に出しておきます。



糸切りボタンで糸を切ったときは、下糸を出す必要はありません。

- ③ ぬい始めの位置が向こう側になるように、布を押えの下にセットして、押えを下げます。
- 厚い布のポケット口のかん止めをぬうには、厚紙をポケットの横にそえるとぬいやすくなります。
- ④ ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。



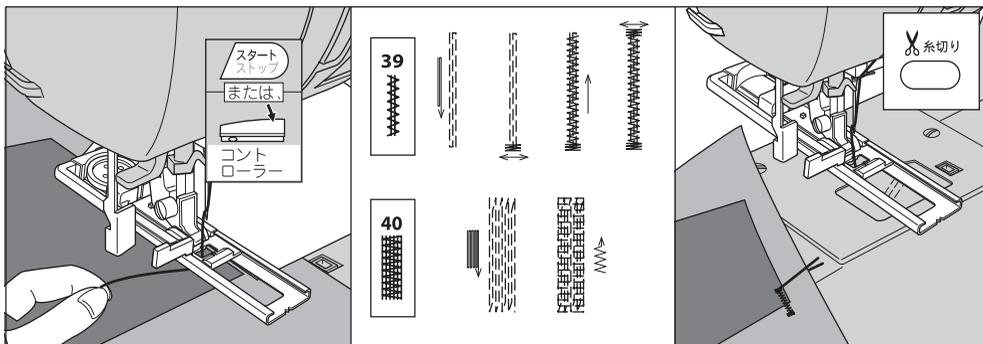
押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

ご注意: ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、スタートしません。

5 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。

6 図の順序でかん止めやつくろいぬいがぬわれていきます。

7 糸切りボタンを押します。押えを上げて布を出します。

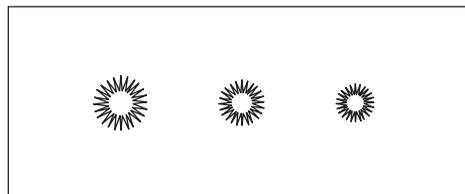


ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

アイレット (はと目穴)



ベルトの穴などに使用するアイレット (はと目穴) を作ります。

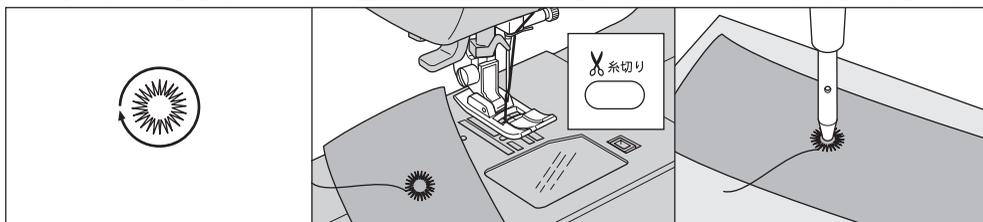


ジグザグのふり幅を調節して、アイレットの大きさを3段階に変えることができます。

1 布を入れ、押えを下げ、スタートします。

2 糸切りボタンを押し、押えを上げて布を取り出します。

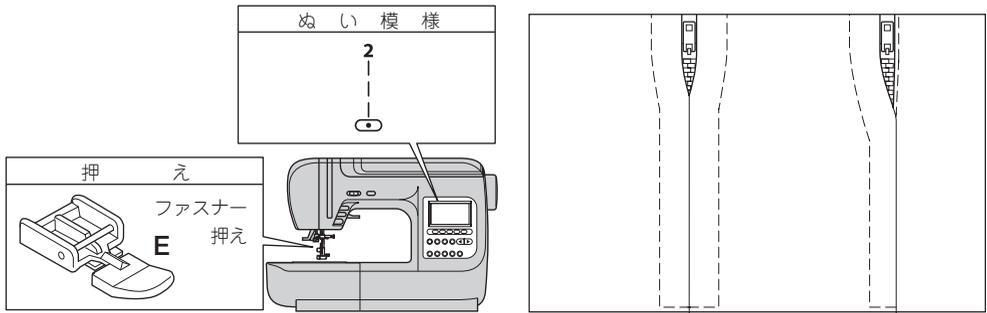
3 はと目穴パンチ (市販品) で穴をあけます。



ぬい終わると止めぬいをして自動的に停止します。

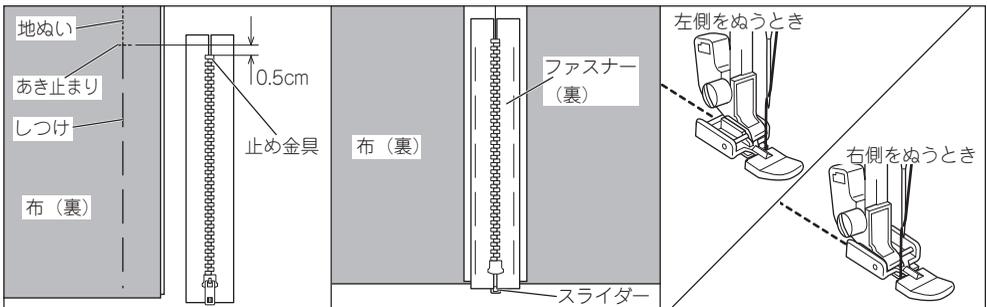
穴をあけるときは、下に厚紙などをしてください。

ファスナー付け (つき合わせ・脇あき)



■つき合わせ

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- ② ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。

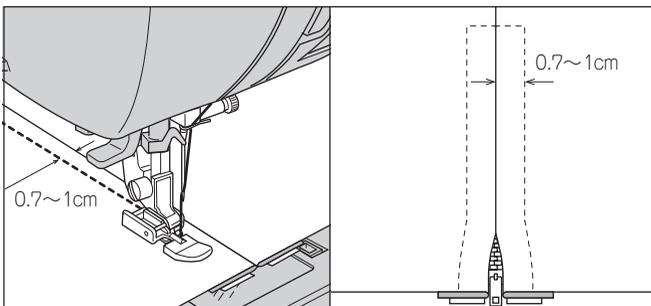


あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとりします。



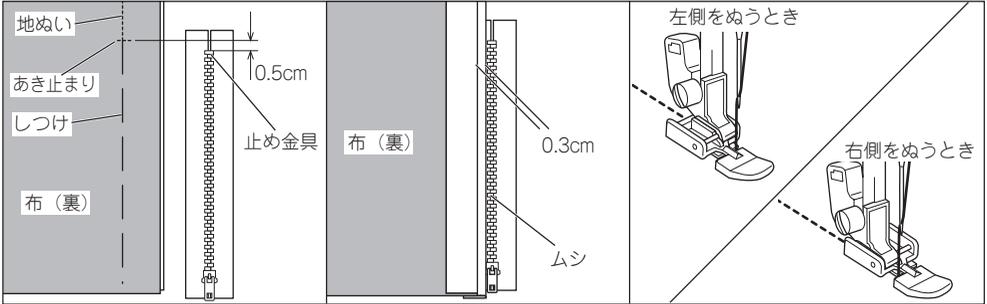
布の合わせ目から0.7~1cmはなしてぬいます。

右側も同様に0.7~1cmはなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えは、必ず実用(↓)だけにし、針位置も変えないでください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたり危険です。

脇あき

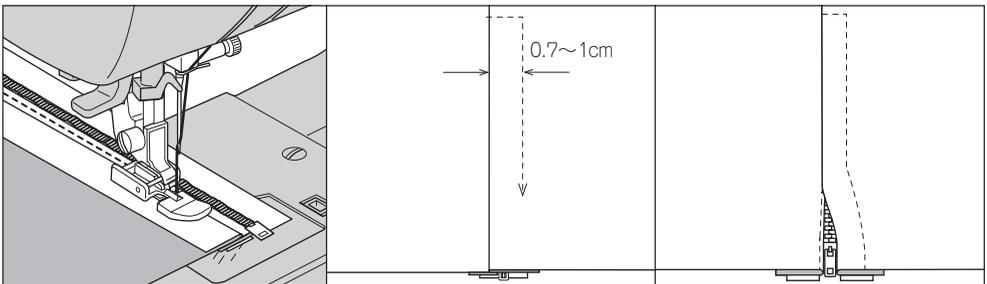
- 1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- 2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- 3 ファスナー押えを取り付けます。



あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

- 4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- 5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。
- 6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

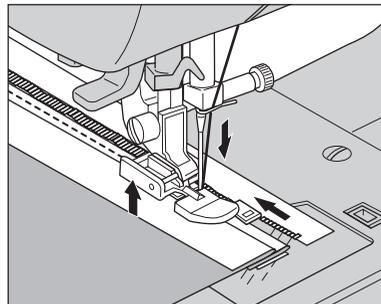


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

右側は、布の折り目から0.7~1cmはなしてぬいます。

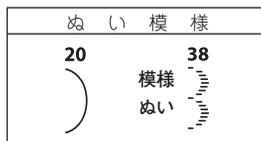
●スライダーをよけてぬうには：

1. スライダーの手前でミシンを止めます。(針が下位置で止まります。)
2. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
3. 押えを下げてぬい続けます。

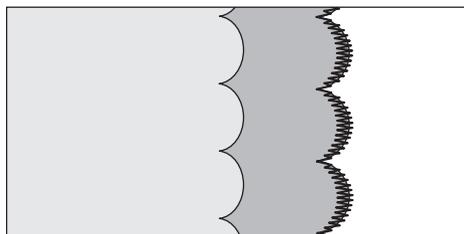
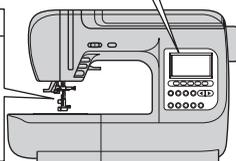
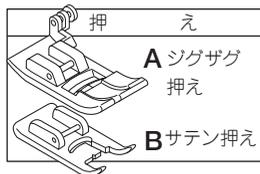


ファスナー付け(脇あき)

スカラップ ステッチ

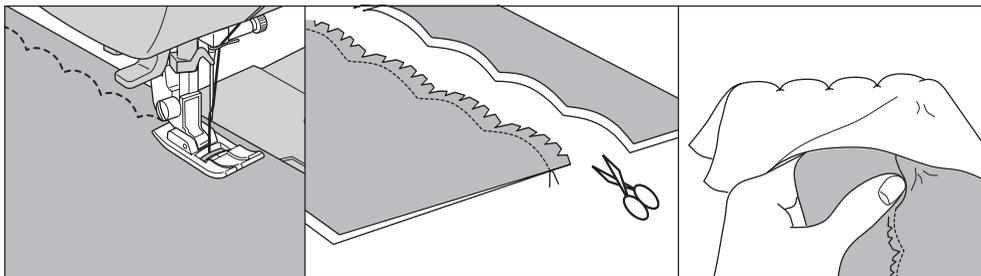


テーブルクロスやブラウスのえりのふち飾りに使います。



●スカラップ1 (実用20)

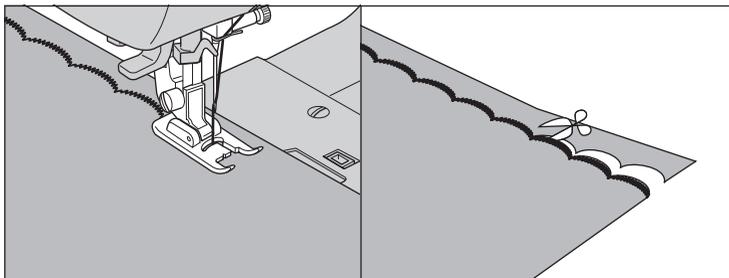
- 1 布を中表に折り、その端にそってぬいます。
- 2 ぬい目にそって0.3cm位のぬいしろをとって切り取り、ぬいしろに切り込みを入れます。
- 3 布を表に返して、ぬい目の山を表に押しだし、アイロンで仕上げます。



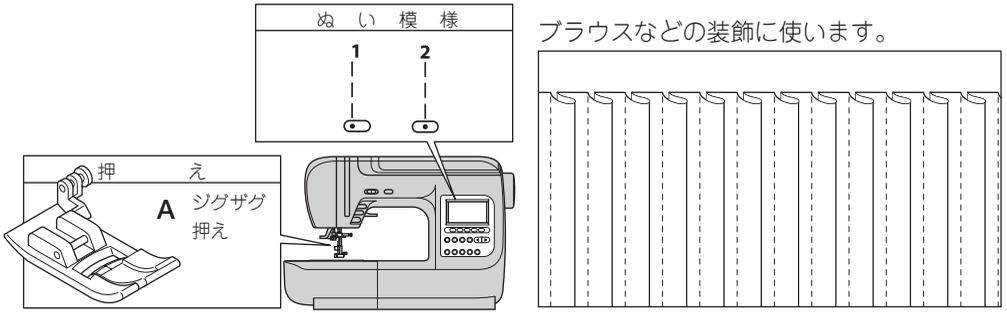
●スカラップ2 (模様38)

模様ぬい38の連続ぬいでもスカラップををぬうことができます。この場合、サテン押えをお使いください。(選び方は、38ページ「模様・文字ぬい」参照)

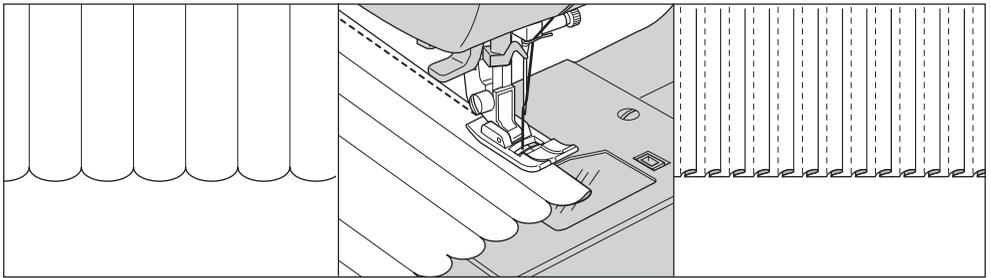
- 1 布はしに模様がかからないよ
 - 2 糸を切らないように注意してぬうにはしを残してぬいます。
- い目にそって布を切ります。



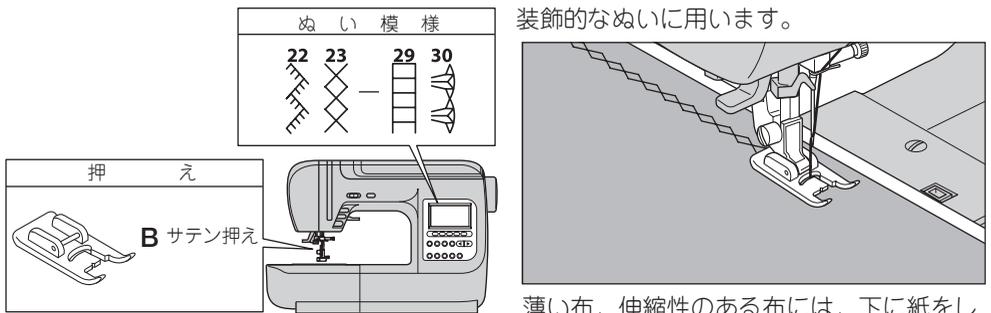
ピンタック



- ① アイロンでピンタックの折り山を整えます。 ② 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。 ③ アイロンで片側に倒しながら、ピンタックをぬいます。



飾りぬい



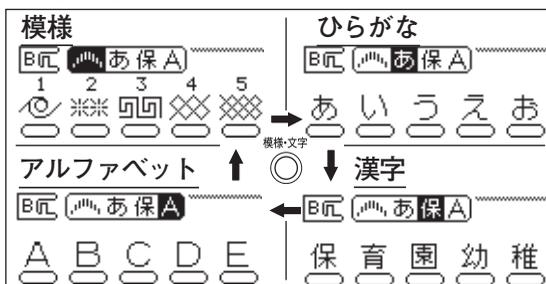
薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。

模様・文字ぬい

このミシンは、模様と文字を組み合わせて、連続してぬうことができます。
模様、ひらがな、漢字、アルファベットの4つのグループに分けられます。

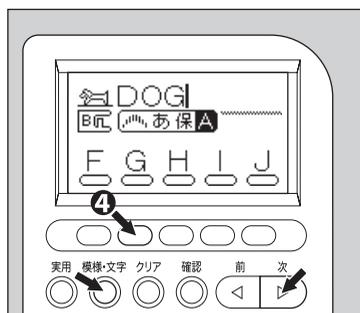
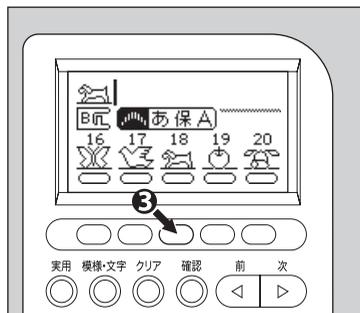
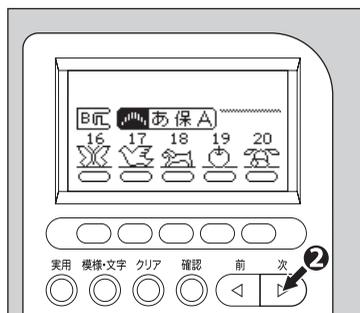
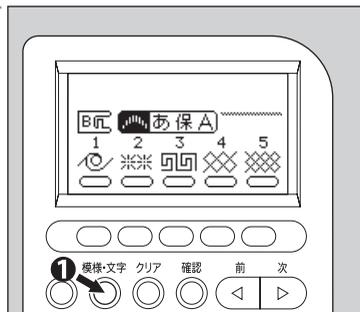
■ 模様・文字の選び方（模様・文字選択画面）

- ① 模様・文字ボタンを押します。
1回押すと模様グループの画面になります。
ボタンを押すごとにひらがな、漢字、アルファベットの順にグループが切りかわります。最初にぬいたいグループを選んでください。
(模様・文字ぬいの画面では、ぬい方向が横向きに表示されます。)



- ② 次ボタンを押すごとにグループ内の次の5つの模様・文字が、前ボタンを押すごとに前の5つの模様・文字が現れますので、ぬいたい模様・文字が現れるまで、次、前ボタンを押します。
模様、文字の配列は、トップカバー内側や、この手びきの次ページ、56ページを参照ください。
- ③ ぬいたい模様・文字の下の機能ボタンを押します。
選ばれた模様・文字が画面の左上に表示されます。
記憶される模様の1単位が次ページに表示してあります。
(文字の場合は、1文字が記憶されます。)

- ④ 1-3と同じようにして、次にぬいたい模様・文字を選んでいきます。
選ばれた模様・文字が画面左上に順番に表示されていきます。
表示しきれなくなったときは、先頭の部分が画面から消えていきます。(画面から消えても、ミシンは、選んだ順番を記憶していません。40ページ「模様・文字の確認」参照)



模様・文字一覧

模様・文字は30個まで記憶することができます。

模様・文字	模様	模様・文字	ひらがな	模様・文字	漢字	模様・文字	アルファベット
○	1	○	あ	○	保	○	A
→	2	→	い	→	育	→	B
↑	3	↑	う	↑	園	↑	C
↓	4	↓	え	↓	幼	↓	D
←	5	←	お	←	稚	←	E
→	6	→	か	→	小	→	F
↑	7	↑	き	↑	中	↑	G
↓	8	↓	く	↓	学	↓	H
←	9	←	け	←	校	←	I
→	10	→	こ	→	年	→	J
↑	11	↑	さ	↑	組	↑	K
↓	12	↓	し	↓	才	↓	L
←	13	←	す	←	生	←	M
→	14	→	せ	→	日	→	N
↑	15	↑	そ	↑	月	↑	O
↓	16	↓	た	↓	火	↓	P
←	17	←	ち	←	水	←	Q
→	18	→	つ	→	木	→	R
↑	19	↑	て	↑	金	↑	S
↓	20	↓	と	↓	土	↓	T
←	21	←	な	←	〇	←	U
→	22	→	に	→	一	→	V
↑	23	↑	ぬ	↑	二	↑	W
↓	24	↓	ね	↓	三	↓	X
←	25	←	の	←	四	←	Y
→	26	→	は	→	五	→	Z
↑	27	↑	ひ	↑	六	↑	[]
↓	28	↓	ふ	↓	七	↓	-
←	29	←	へ	←	八	←	?
→	30	→	ほ	→	九	→	a
↑	31	↑	ま	↑	十	↑	b
↓	32	↓	み	↓	()	↓	c
←	33	←	む	←	?	←	d
→	34	→	め	→	!	→	e
↑	35	↑	も	↑	/	↑	f
↓	36	↓	や	↓	'	↓	g
←	37	←	ゆ	←		←	h
→	38	→	よ	→		→	i
↑	39	↑	ー	↑		↑	j
↓	40	↓	が	↓		↓	k
←		←	ぎ	←		←	l
→		→	ぐ	→		→	m
↑		↑	げ	↑		↑	n
↓		↓	ご	↓		↓	o
←		←	ざ	←		←	p
→		→	じ	→		→	q
↑		↑	ず	↑		↑	r
↓		↓	ぜ	↓		↓	s
←		←	ぞ	←		←	t
→		→	だ	→		→	u
↑		↑	ち	↑		↑	v
↓		↓	づ	↓		↓	w
←		←	で	←		←	x
→		→	ど	→		→	y
↑		↑	ば	↑		↑	z
↓		↓	び	↓		↓	&
←		←	ぶ	←		←	!
→		→	べ	→		→	/
↑		↑	ぼ	↑		↑	'
↓		↓	ぱ	↓		↓	
←		←	ぴ	←		←	0
→		→	ぷ	→		→	1
↑		↑	ぺ	↑		↑	2
↓		↓	ぽ	↓		↓	3
←		←	0	←		←	4
→		→	1	→		→	5
↑		↑	2	↑		↑	6
↓		↓	3	↓		↓	7
←		←	4	←		←	8
→		→	5	→		→	9
↑		↑	6	↑		↑	
↓		↓	7	↓		↓	
←		←	8	←		←	
→		→	9	→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→		→	
↑		↑		↑		↑	
↓		↓		↓		↓	
←		←		←		←	
→		→		→			

■ 模様・文字の確認

記憶させた模様・文字が表示しきれなくなった場合は、先頭の部分が画面から消えていきますが、ミシンは、この順番を記憶しています。

確認ボタンで記憶させた模様・文字を確認することができます。

また、このとき、模様のジグザグのふり幅やぬい目長さを変えたり、全体の上糸調子を変えることができます。

① 確認ボタンを押します。

最後に記憶させた模様・文字が反転表示されます。

（確認画面）



② 前ボタンを押すと反転が1つ前の模様・文字に移動します。

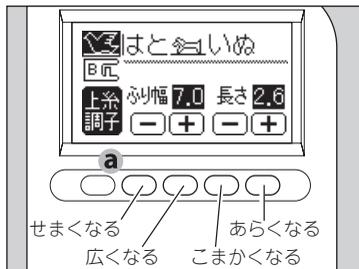
前ボタンを押すごとに1つずつ前に、次ボタンを押すごとに次に移ります。画面の1番前までくるとその前に記憶した模様・文字が現れます。

記憶した模様・文字の1番前や、1番最後になるとピピピとなってお知らせします。



a 模様を記憶させた場合、反転表示された模様のぬい目長さ・ジグザグのふり幅が下段に表示されますので、右図のように機能ボタンで調節できます。

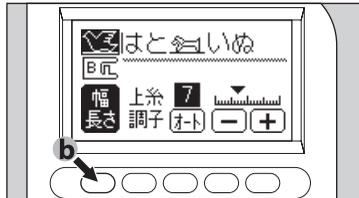
（文字は、ぬい目長さ・ジグザグのふり幅を変えられません。また、文字しか記憶していない場合、上糸調子調節画面が現れます。）



b 機能ボタンの上糸調子ボタンを押すと、上糸調子調節画面に切りかわります。

組み合わせた模様・文字全体の上糸調子を自動設定値から変えることができます。（上糸調子の取り方は、13ページ参照）

（上糸調子ボタンは、幅・長さボタンに変わります。）



c クリアボタンを押すと反転表示されている模様・文字が取り消されます。

長めに押すとまとめて取り消されます。



- ③ 確認ボタンまたは、模様・文字ボタンをもう一度押すと模様・文字選択画面に戻ります。



■ 模様・文字の取り消し

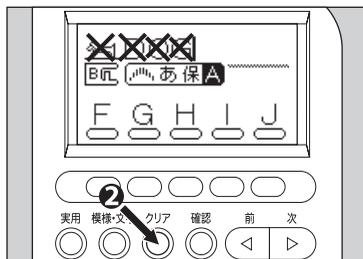
記憶させた模様・文字を取り消したいときは、クリアボタンを押すと、最後に選んだ模様・文字が取り消されます。

- ① クリアボタンを押すごとに、後ろから1つずつ取り消されていきます。



- ② 長めに押すとまとめて取り消されます。

- 確認画面でクリアボタンを押すと、反転している模様・文字が取り消されます。（前ページ参照）



■ 模様・文字の呼び出し

模様・文字の組み合わせは、一度記憶させると、実用ぬいをぬった後からでも呼び出せます。

実用ぬいをぬった後、模様・文字ボタンを押します。選択画面になり、記憶していた模様・文字が呼び出されます。

- 糸調子は、自動設定値に戻ります。

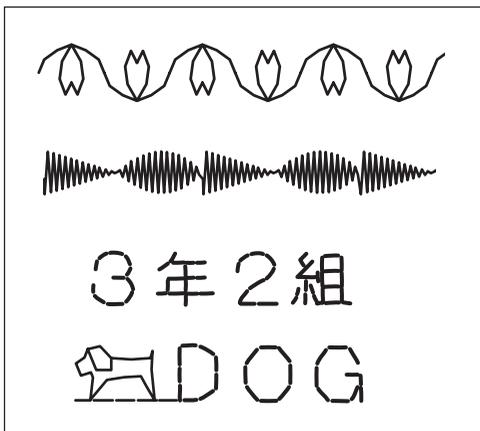
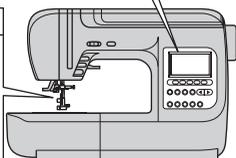
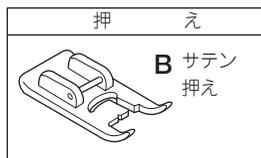


記憶した模様・文字をすべて削除するには、クリアボタンを長めに押します。（上記参照）

電源を切ると、記憶は削除されます。

模様・文字のぬい方

ぬい模様
記憶させた
模様・文字



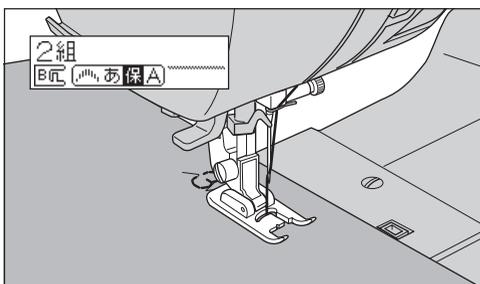
文字をぬうときの針は、11番のニット針が適しています。

また、糸は、細めのものをお使いください。

模様・文字を記憶させた後、布をセットしてスタートさせます。

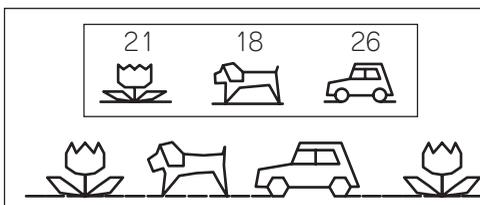
ミシンは記憶した模様・文字を順番にぬっていきます。

ぬい終わった模様・文字は、画面から消えていきます。



繰り返しぬい

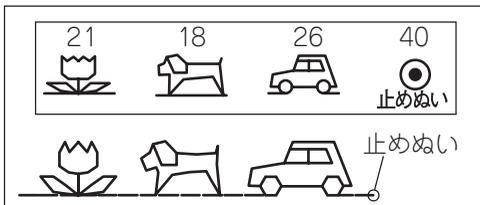
組み合わせの最後が止めぬい（40）を除く模様の場合、ミシンは、同じ組み合わせをくり返しぬいますので、止めたい位置まできたらストップしてください。



自動停止ぬい

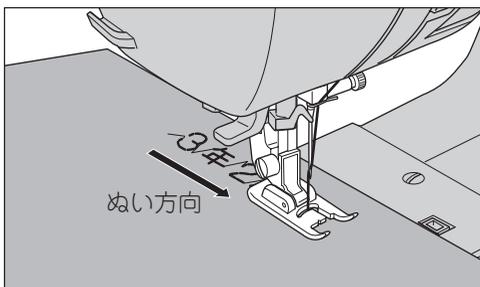
組み合わせの最後を止めぬい（40）や文字にした場合、ミシンは、組み合わせを1組ぬうと自動的に止まります。

組み合わせの最初や途中で止めぬいを入れても、ミシンは、止めぬいをぬった後、止まらずに次の模様を続けてぬいます。



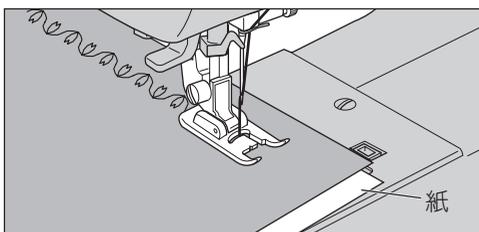
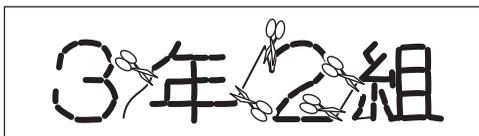
電源を切ると記憶させた模様・文字はすべて削除されます。

文字ぬいは、文字を横に倒した状態で、たて方向にぬい進みます。



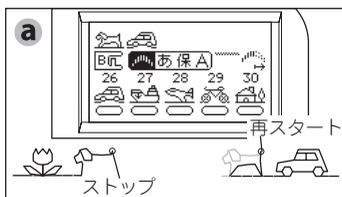
文字ぬいの場合、ぬい終わったら文字と文字の間の余分な糸を切り取って仕上げます。

薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。

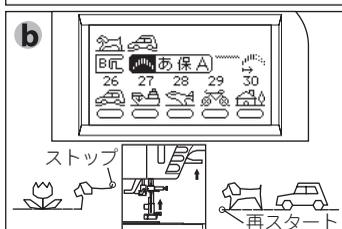


●ぬい状態表示機能

a ぬいの途中でミシンをストップさせると、ぬいの途中であることを示すマーク () が中段右端に表示されます。このマークが表示されている場合、再スタートさせれば、そのまま続きをぬうことができます。



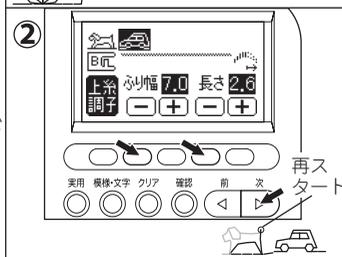
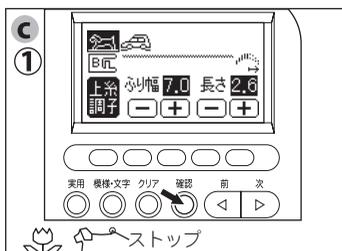
b ぬいをストップして押えを上げると、マークが () に変わります。この場合、再スタートさせると、中断した模様・文字の最初からぬい始めます。これは、糸切れした場合などで模様・文字をぬい直すための機能です。糸切れした模様・文字をほどこいて、その最初の位置に布を合わせてからぬい直してください。



c また、この機能でぬいの途中でジグザグのふり幅やぬい目長さ、上糸調子を確認したり、変更することができます。

- ぬいの途中でミシンを止め、確認ボタンを押します。画面は、確認画面になりますが、 () マークが表示されているので、ぬいの途中であることがわかります。
- この状態で前、次ボタンで別の模様・文字を白黒反転させ、ジグザグのふり幅やぬい目長さ、上糸調子を確認したり変更したりできます。 () マークが表示されている限り、再スタートさせると、止めた模様・文字の続きをぬいます。

この変更は、ぬう前の模様には適用されますが、ぬい終わったり、ぬい途中の模様には、次のぬいから適用されます。



確認や、変更の途中でも、押えを上げると () マークに変わり、停止した模様・文字の最初からぬい始めます。

(この模様の変更は適用されます。)

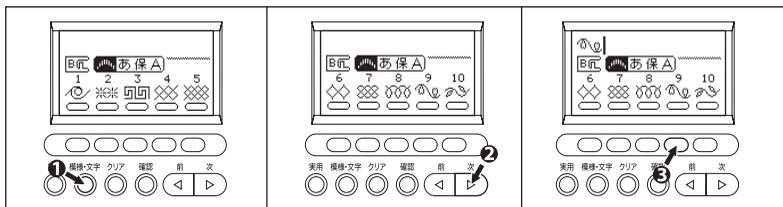
● 選び方とぬい方の例

(電源スイッチを入れた状態からの手順です。)

単独模様ぬい



同じ模様をつづけてぬいます。

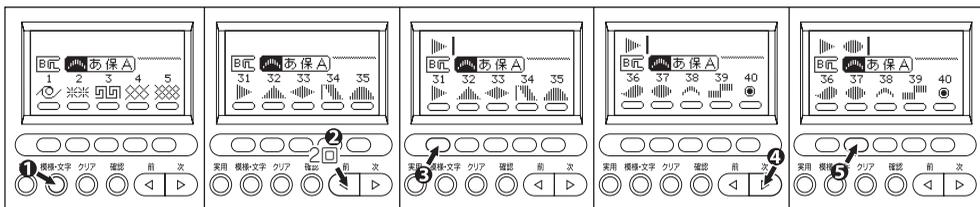


1. 模様・文字ボタンを1回押します。
2. 次ボタンを1回押します。
3. 模様(9)を選びます。

模様の組み合わせぬい



組み合わせた模様をくり返しぬいます。

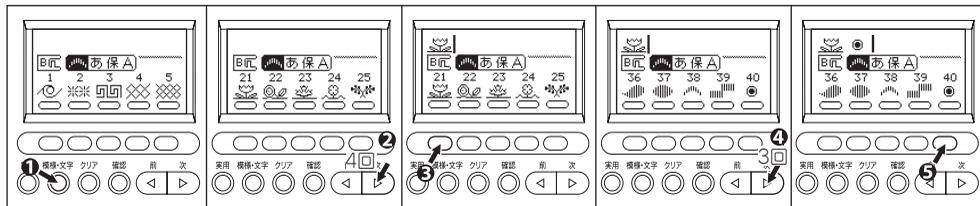


1. 模様・文字ボタンを1回押します。
2. 前ボタンを2回押します。
3. 模様(31)を選びます。
4. 次ボタンを1回押します。
5. 模様(37)を選びます。

ワンポイントぬい



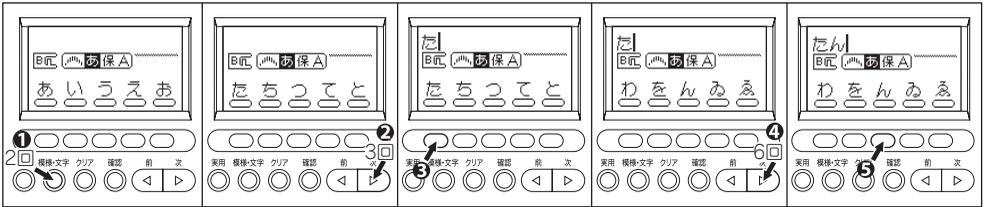
模様を1回ぬって止まります。



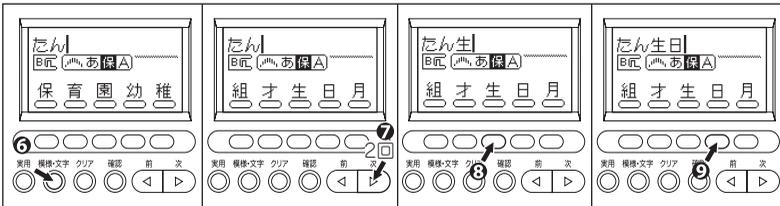
1. 模様・文字ボタンを1回押します。
2. 次ボタンを4回押します。
3. 模様(21)を選びます。
4. 次ボタンを3回押します。
5. 止めぬい(40)を選びます。

文字ぬい たん生日

組み合わせた文字を1回ぬって止まります。



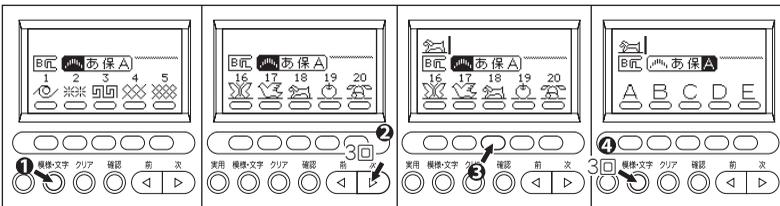
1. 模様・文字ボタンを2回押します。
2. 次ボタンを3回押します。
3. 「た」を選びます。
4. 次ボタンを6回押します。
5. 「ん」を選びます。



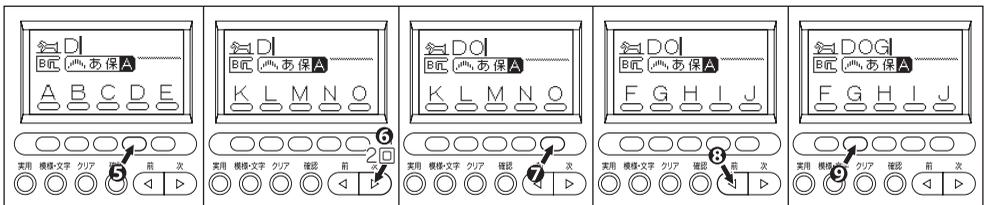
6. 模様・文字ボタンを1回押します。
7. 次ボタンを2回押します。
8. 「生」を選びます。
9. 「日」を選びます。

模様と文字の組み合わせぬい

組み合わせた模様と文字を1回ぬって止まります。



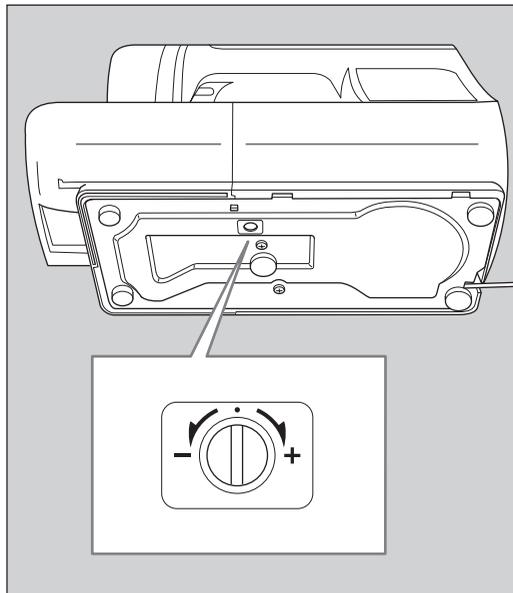
1. 模様・文字ボタンを1回押します。
2. 次ボタンを3回押します。
3. 模様 (18) を選びます。
4. 模様・文字ボタンを3回押します。



5. 「D」を選びます。
6. 次ボタンを2回押します。
7. 「O」を選びます。
8. 前ボタンを1回押します。
9. 「G」を選びます。

ぬい目の形の調整

布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によってはぬい目の形がくずれてしまう場合があります。模様ぬい、文字ぬいをしているときに形がくずれるようでしたら、ミシン底部にあるバランス調整ネジを回してきれいなぬい目が得られるように調整してください。



模様ぬい

右の図のようなときは、ネジを（+）に回します。

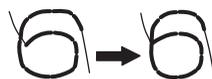


右の図のようなときは、ネジを（-）に回します。

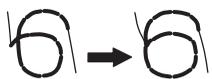


文字ぬい

右の図のようなときは、ネジを（+）に回します。



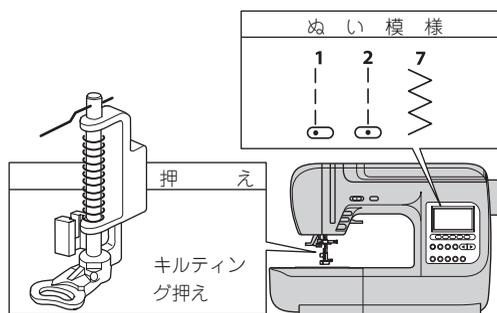
右の図のようなときは、ネジを（-）に回します。



ミシンの仕様

定 格 電 圧	100 V
消 費 電 力	50 W
周 波 数	50Hz/60Hz
ラ ン プ	白色LED
寸 法	幅：439 mm × 高さ：287 mm × 奥行き：195 mm
重 量	7.5 kg

キルティング押えのご案内 (別売り品)



キルティング押えを使うと、布を手で操作して、ぬう方向を自由に変えられるようにする曲線ぬいができます。キルティング押えを使うときには、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■キルティング押えの取り付け方

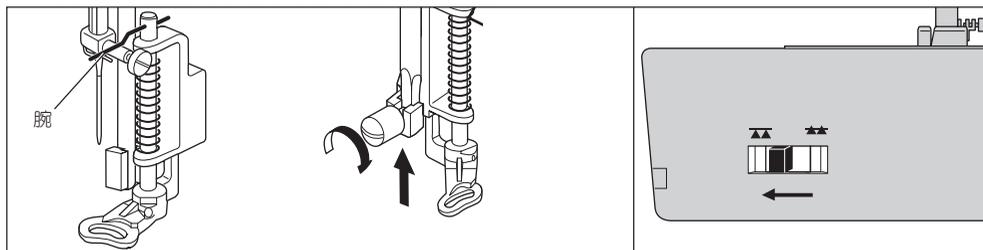


注意：ケガ防止のために；

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

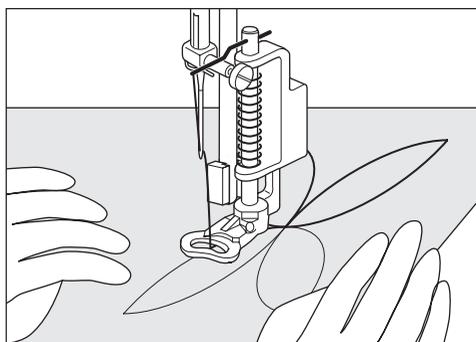


- 1 押えホルダーを取りはずします。
(18ページ参照)
- 2 押えの腕が、針止めの軸の上にくるように取り付け、押えのホルダー部分を上に持ち上げながら、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。
- 3 ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。



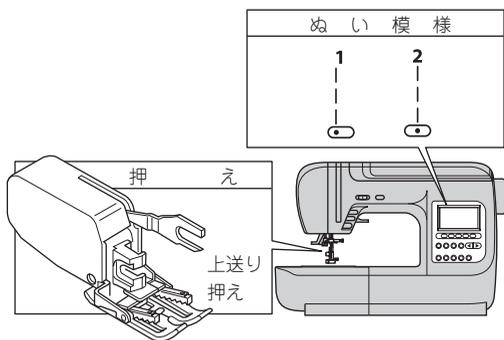
■ぬい方 (曲線ぬい)

- 1 布に模様を下書きします。
薄い紙に書いて、布にのせる方法もあります。(ぬい終わってから紙を取り除きます。)
- 2 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
押えは始めは浮いていますが、ぬい始めると針と一緒に上下に動き出します。
- 3 スピードをゆっくりにします。
- 4 下絵にそって布を動かしてぬいます。
このとき手が針に触れないよう、十分注意してください。



● ぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して送り歯を上げておいてください。

上送り押えのご案内 (別売り品)



くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に、上送り押えを使うと2枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。

次のような布地にお使いください。

- 格子じまや、しま地
- ビニール、レザーや、つやのある布地
- パイル地、けば立った布地
- ベルベットやとくにすべりやすい化繊地
- 長いぬい合わせに…

- お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■ 上送り押えの取り付け方

! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



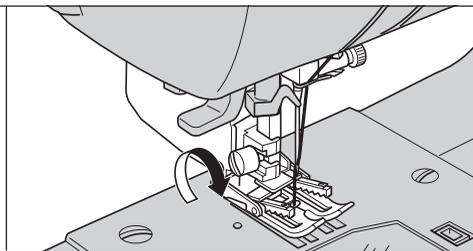
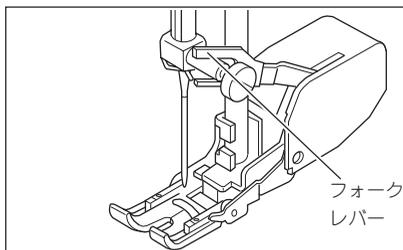
1 押えホルダーを取りはずします。

(18ページ参照)

2 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかかけます。

3 押えのホルダー部を押え棒に後ろから

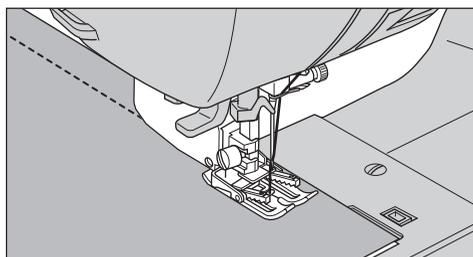
取り付け、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。



■ ぬい方

スピードをゆっくりにしてぬってください。

! 注意：ケガ防止のために；
上送り押えは、必ず上記の模様だけにお使いください。



お知らせメッセージ

ミシンが正しくない状態でスタートしようとしたときや、間違った操作をしたときには、ピピピッと電子音がなって案内窓にメッセージが表示されます。

メッセージ	原因	処置	参照ページ
押えを下げて下さい	押えを上げたままスタートさせようとしている	布地を入れ、押えを下げてぬってください	8
模様を選んで下さい	模様を選ばないでスタートしようとしている	模様を選んでください	10, 38
これ以上記憶できません	記憶させた模様・文字が30個をこえてしまった	記憶させる模様・文字は30個以内にしてください	39
押えを上げて、セットしなおして下さい	ボタンホール、かん止めをぬい終わったのに、もう一度スタートさせようとしている	押えを上げ、ボタンホール押えをぬい始めの位置に正しくセットしてから押えを下げます	30, 32
返しぬいボタンをはなして下さい	返しぬいボタンを押したまま電源スイッチを入れた	返しぬいボタンをはなしてください	9
スタート・ストップボタンをはなして下さい	スタート・ストップボタンを押したまま電源スイッチを入れた	スタート・ストップボタンをはなしてください	8
針上下ボタンをはなして下さい	針上下・クイックスローボタンを押したまま電源スイッチを入れた	針上下・クイックスローボタンをはなしてください	9
糸切りボタンをはなして下さい	糸切りボタンを押したまま電源スイッチを入れた	糸切りボタンをはなしてください	9
フットコントローラーが接続されています	フットコントローラー（別売り）が接続されているのに、スタート・ストップボタンを押した	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずしてください	7
フットコントローラーをはなして下さい	フットコントローラー（別売り）のペダルを踏んだまま電源スイッチを入れたか、止めぬい、ボタンホールぬいをぬい終わったのにペダルを踏んでいる。	ペダルをはなしてください	7
システムの異常です	コンピュータのエラー	電源スイッチを入れ直してください（それでも同じメッセージが出る場合は、修理・サービスをお申しつけください）	7

こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
	ポピンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	53
	針の取りつけ方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	布地に対して糸が弱すぎる	布地と糸、針の関係を合わせます	19
下糸が切れる	ポピンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	ポピンケースに糸がからまっている	からんだ糸を取りのぞき掃除します	53
	外がまにゴミがたまっている	掃除します	53
ぬい目がとぶ	針の取りつけ方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	針が曲がっているか、先がつぶれている	針を取りかえます	19
	布地に対して糸と針が合っていない	布地と糸、針の関係を合わせます	19
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
	ポピンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	針の先がつぶれている	針を取りかえます	19
ぬい目に輪ができる	ポピンのセットがまちがっている	正しくセットし直します	15
	糸のかけ方がまちがっている	正しくかけ直します	16
模様があざれる	模様に対して押えが合っていない バランスが合っていない	模様に合った押えを取りつけます バランス調整ネジで調整します	23～ 46
糸通しができない	針が上にながっていない	針上下ボタンで針を上へ上げます	9, 17
	針の取りつけ方がまちがっている	正しくつけ直します	19
	針が曲がっている	針を取りかえます	19
布地を送らない	ぬい目長さが布地に合っていない	ぬい目長さを調整します	12, 40
	送り歯が下がっている	ドロップフィードレバーを右にして、送り歯を上げます。	8
	送り歯にほこりがかたまっている	掃除します	53
針が折れる	布地を無理に引っ張っている	手は布地にそえるだけにします	20
	模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている）	模様に合った押えを取りつけます	23～
	針の取りつけ方がまちがっているか、しめ方がゆるい	正しくつけ直します	19
	布に対して針が細すぎる	布地と糸、針の関係を合わせます	19
回転が重く音が高い	外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板をはずして掃除します	53
ミシンが動かない	電源プラグの差し込みが不十分である	しっかり差し込みます	7
	電源スイッチが入っていない	スイッチを入れます	7
	フットコントローラーが取り付けられている	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします	7
	糸巻き軸が右へ押されている	左へもどします	14
	押えが上がっている	押えを下げます	8
	ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない	きちんと下げます	30,32
	ボタンホール押えが取り付けられていない	ボタンホール押えを取りつけます	30,32

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（55ページ参照）におたずねください。

ミシンのお手入れ

糸くずやほこりがたまと、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

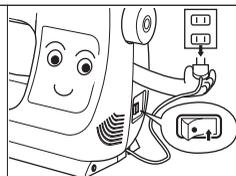
● お知らせ

このミシンのランプには、長寿命のLEDランプを使用しています。

もし、ランプが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠警告；感電、ケガ防止のために；

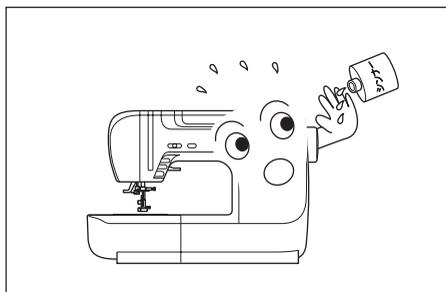
お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



■ ミシン表面、ミシンカバーの掃除

やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。

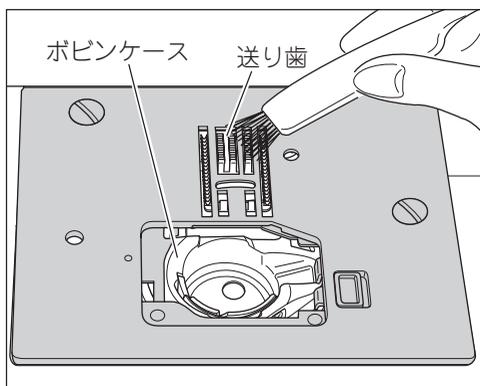
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ 送り歯の掃除

ボビンカバーとボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

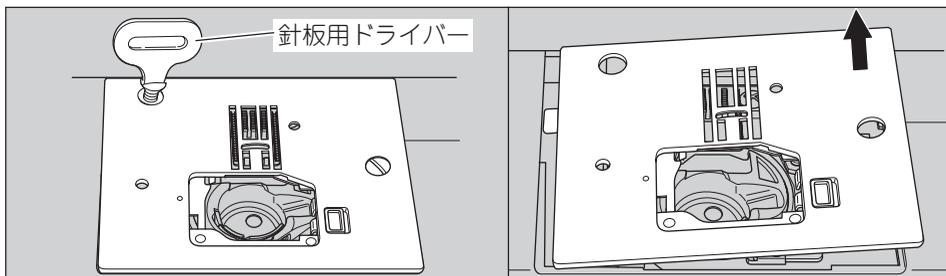
- 外がまやボビンケースには、油をささないでください。



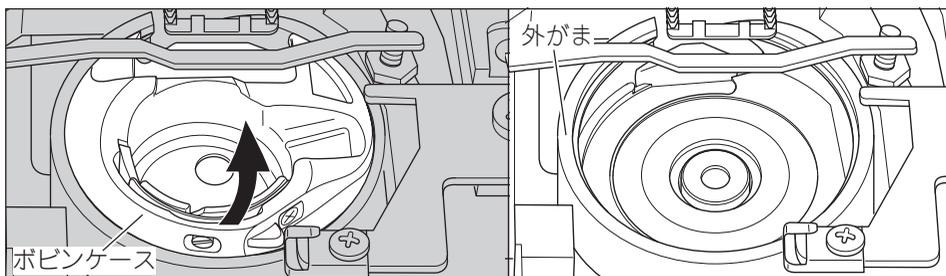
■ 外がまとボビンケースの掃除

定期的に針板を外して、中の外がまや送り歯を掃除してください。

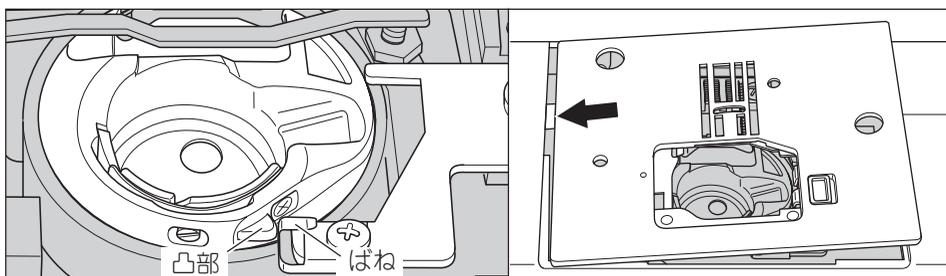
- 1 針と押えホルダーを取りはずします。
ボビンカバーとボビンを取りはずします。
針板止ネジ2本を外します。
- 2 針板の右側を持ち上げて、針板を取りはずします。



- 3 ボビンケースの手前を上持ち上げて取り出します。
- 4 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいい布でかくるくふき取ります。



- 5 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。
- 6 針板左側のツメをミシン本体に差し込んでから、針板止ネジを取り付けます。



修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
 - 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
 - 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

150年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先 (純正部品の購入方法)

シンガーマシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。

株式会社 シンガーハッピージャパン

「お客様相談係」

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

TEL. 03-3837-1865 FAX. 03-3837-0072

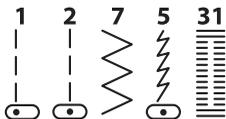
- * 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- * シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

ぬい模様一覧

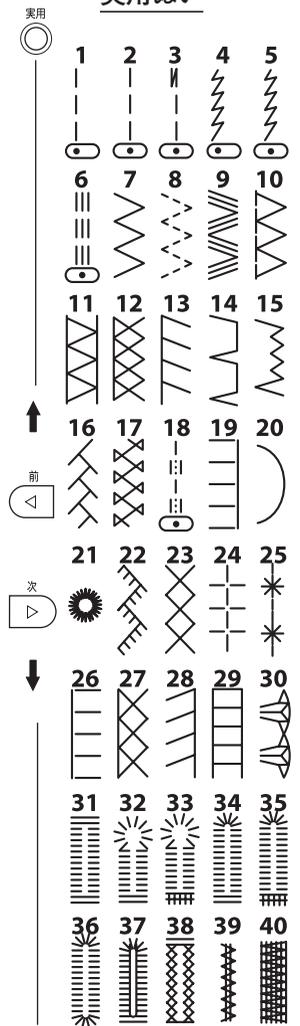
このミシンでぬえる模様の一覧です。

●基本ぬい、実用ぬいの選び方は10ページ

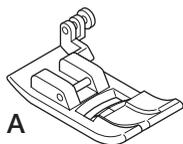
基本ぬい



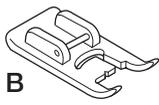
実用ぬい



●押えと記号



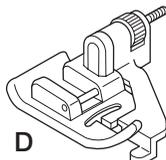
A
ジグザグ押え
(ミシンについています)



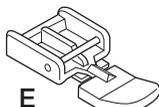
B
サテン押え



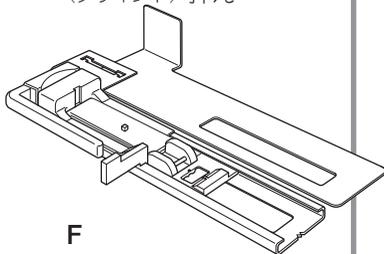
C
ふちかがり押え



D
まつりぬい
(ブラインド) 押え



E
ファスナー押え



F
ボタンホール押え
(アンダープレート付)

●模様・文字ぬいの選び方は38ページ

模様・文字	模様	ひらがな	漢字	アルファベット																
1	2	3	4	5	あ	い	う	え	お	保	育	園	幼	稚	A	B	C	D	E	
6	7	8	9	10	か	き	く	け	こ	小	中	学	校	年	F	G	H	I	J	
11	12	13	14	15	さ	し	す	せ	そ	組	才	生	日	月	K	L	M	N	O	
16	17	18	19	20	た	ち	つ	て	と	火	水	木	金	土	P	Q	R	S	T	
21	22	23	24	25	な	に	ぬ	ね	の	○	一	二	三	四	U	V	W	X	Y	
26	27	28	29	30	は	ひ	ふ	へ	ほ	五	六	七	八	九	Z	[]	.	-	?	
31	32	33	34	35	ま	み	む	め	も	十	()	?	!		a	b	c	d	e	
36	37	38	39	40	や	ゆ	よ	[]	.						f	g	h	i	j	
					ら	り	る	れ	ろ						k	l	m	n	o	
					わ	を	ん	ゐ	ゑ						p	q	r	s	t	
					つ	や	ゆ	よ	ー						u	v	w	x	y	
					が	ぎ	ぐ	げ	ご						z	&	!	/	'	
					ざ	じ	ず	ぜ	ぞ						0	1	2	3	4	
					だ	ぢ	づ	で	ど						5	6	7	8	9	
					ば	び	ぶ	べ	ぼ											
					ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ											
					0	1	2	3	4											
					5	6	7	8	9											

模様の太線で表示された部分が、選んだときに記憶される1単位です。

模様40は、止めぬいです。模様の組み合わせの最後に記憶させると、自動停止ぬいになります。(42ページ参照)

ひらがな、アルファベットの「[]」は、1文字分あけるときに使います。(実際には、1針ぬい進むだけです。)

ぬい上がりの文字は、見本と少し異なることがあります。

SINGER®
シンガーミン

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865